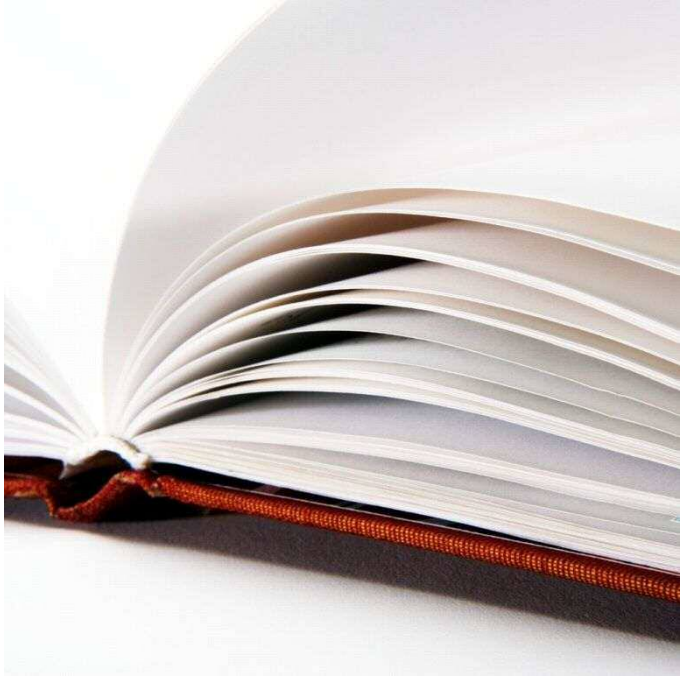
第二次狛江市
子ども読書活動推進計画



狛江市教育委員会

平成 25 年3月

目　次

はじめに ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

計画策定の背景 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
１　子どもの読書活動の意義 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
２　子ども読書活動の現状と狛江市の動向 ・・・・・・・・・・・・・・ 2
計画策定の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
計画策定の基本方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
計画の期間 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
計画の対象 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

Ⅰ　本編
乳幼児（０歳～２歳） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
幼　児（３歳～５歳） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
小学生（６歳～12 歳）
小学校の取り組み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
１年生・２年生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
３年生・４年生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
５年生・６年生 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
特別な支援を必要とする子どもたちの読書活動について・・・・・・・・・・・ 20
市立図書館の取り組み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
中学生・高校生等（13 歳～18 歳）
中学校の取り組み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
市立図書館の取り組み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
用語説明及び参考文献 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

Ⅱ　資料編
【資料１】子どもの読書活動の推進に関する法律・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
【資料２】平成 24 年度
「家庭における乳幼児期の読書環境に関するアンケート」の集計結果・・・・ 36
【資料３】「狛江　本の森　学校図書館　活用ノート」（抜粋）・・・・・・・・・・・・ 52
【資料４】第二次狛江市子ども読書活動推進計画策定までの取り組み・・・・・・・・ 56
【資料５】第二次狛江市子ども読書活動推進計画(素案)に対する
市民からのご意見と市の考え方・・・・・・ 57

はじめに

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。(「子どもの読書活動の推進に関する法律第２条」抜粋)

すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、自主的に読書活動を行うことができるよう、環境の整備を積極的に推進する必要があります。また、平成 17 年７月に制定された文字・活字文化振興法においても生涯にわたり、地域、学校、家庭その他の様々な場において、居住する地域、身体的な条件その他の要因にかかわらず、等しく豊かな文字・活字文化の恵沢を享受できる環境を整備することと規定されています。

近年、携帯電話やインターネットといった情報通信ネットワークが急速に進展していることに伴う子どもたちの読書離れに､懸念の声が上がっています。その一方で読書のきっかけや本に関する情報入手の手段として、これらの有用性は否定されるものではありません。子どもを取り巻く環境は変化していますが、子どもにとって読書をすることは、自分の将来に夢を持ち、自己実現を図っていく上で極めて重要な役割を果たしていることに変わりありません。子どもが自主的な読書活動を通じて、生きる力を育んでいくためには、周囲の大人が子ども一人一人に対し、多様な分野の本とであえる環境をつくっていくことが大切です。

計画策定の背景

1　子どもの読書活動の意義

子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであります。ついては、すべての子どものためにあらゆる機会とあらゆる場所において、積極的に環境の整備を推進していくとともに、すべての人が子どもの読書活動推進に関わる必要があります。

2　子ども読書活動の現状と狛江市の動向

子どもの読書活動の現状について、平成23年度の第57回読書調査（全国学校図書館協議会・毎日新聞社）によると、１か月間の平均読書冊数は、小学生9.9冊、中学生3.7冊、高校生1.8冊となっており平成22年度に比べ、それぞれ小学生0.1冊減、中学生0.5冊減、高校生0.1冊減と、ほぼ横ばいといってよい減少で推移しています。

また、子どもの読書活動の推進に関する法律施行前である平成13年度調査時の平均読書冊数と比較すると、小学生6.2冊増、中学生2.1冊増、高校生1.1冊増と地道ながら増加してきています。さらに、１か月間に本を１冊も読まない、いわゆる「未読者」の割合を平成13年度調査時と比較すると、小学生4.3%減、中学生27.5%減、高校生16.2%減と大幅に減少しています。

平均読書冊数の増加と未読者の減少は、子どもたちの読書環境が改善されてきていることを示しています。読書活動は国を挙げて推進されているものであり、小学校、中学校での「朝読書」や、読書ボランティアによる読み聞かせの実施などの指導によって、読書が習慣化したことで中学生、高校生になっても本を読むことに対しての抵抗が少なくなっているのではないかと思われます。

狛江市では平成15年度からブックスタート事業を開始し、その初年度に対象となった子どもが小学校に入学した平成22年度から『家庭における乳幼児期の読書環境に関する調査』を始めました。平成24年度調査集計（Ⅱ 資料編【資料２】参照。）によると「乳幼児に読み聞かせを始める時期」は77.1%の家庭で１歳までに始めており、「子どもは本が好きですか」という問いには、80.3%の親が子どもは本が好きと答えています。

狛江市では、国（「子ども読書活動の推進に関する基本的な計画」）や東京都（「東京都子ども読書活動推進計画」）の取り組みに合わせ、平成 15 年 11 月に、狛江の子どもたちが、読書活動に親しむことによって、豊かな人間性を育むとともに、学校での学習向上と、読書をとおして家庭と地域の教育力の向上を図ることを目的として「狛江市子ども読書活動推進計画」を策定しました。

この計画の方針として、①中央図書館、西河原公民館学習情報室、学校図書館、地域センター図書室等関係のある諸機関との連携を強化することで図書資料の充実を図ること、②地域の方々や保護者の関心と理解を得ること、③読書活動の推進に取り組む関係団体等との連携と人材育成に努めることの３つの基本認識を基に計画の推進を図りました。

図書館では、この計画に先駆けて、平成９年 10 月から乳幼児向けの親子おはなし会を開始し、地域のおはなしグループの協力を受けて継続しています。現在に至るまで実施回数を増やしたり、平日に参加できない人のために土曜日に開催したりするなど、状況に応じておはなし会のあり方も変容させてきました。乳幼児の親子の図書館利用が増えるにつれて「赤ちゃん絵本」のコーナーを設置し、対象絵本を充実させ、年齢に応じた推薦絵本リストを発行しました。またブックスタート時に配布する資料の一つとして推薦絵本リストを渡すなど、乳幼児サービスに取り組んでいます。

これと並行して、平成 12 年度までに市内の小・中学校に学校司書が全校配置されたことを受けて、学校図書館との連携支援にも力を注いできました。平成14年８月の図書館ホームページ開設による外部からの蔵書検索機能を活用し同年 10 月に学校専用の物流サービスを始め、その後の学校図書館推進事業において、物流のみならず互いに情報を共有し人的な交流を深めています。

平成 15 年度には布の絵本の自館製作、また平成 23 年度にはすべての人に読書の楽しみを持ってもらうため点字絵本の自館製作に取り組み、それぞれの製作ボランティアグループの活動支援と講座等をとおして人材育成を行っています。

図書館の児童サービスの課題としては、就学前の子どもに対する取り組みやそれをサポートする大人への啓発事業を重点とし、その後の小学校の取り組みへと繋いでいくことが挙げられます。併せて、学校図書館への支援を維持することが、間接的に小・中学生への読書推進に作用するものと考えます。

小・中学校においては、読書の量が増えたり、読書の質が向上したりしている学年や子どもについては、学習の場面での話の理解度、集中力などによい

変化が見られ、思考の深まりや資料活用などにも読書で培った力が生かされている傾向も見られます。平成24年度から小学校児童に配付された副読本「狛江 本の森 学校図書館　活用ノート」（１・２年、３・４年、５・６年）は、読書の質や量を向上させ、図書館を活用する力をつける取り組みをすすめるためのものです。

学校においては、平成10年度～12年度に学校司書を学校図書館に全校配置し、児童・生徒の読書活動や学習活動を支援する体制づくり、環境整備を行ってきました。学校図書館を活用した授業や読書活動の取り組みが司書教諭と学校司書の連携のもと各校で進められています。また、平成14年10月から始まった市内小・中学校、市内図書施設との相互貸借搬送システム（週２回）によって読書活動、学習活動の支援が強化されています。これらの体制は文部科学省のモデル事業「学校図書館資源共有ネットワーク推進事業地域指定」「学校図書館支援センター推進事業」の研究においても活かされました。本編の「学校における現在の取り組み」はこうした学校図書館整備を基盤として各校で取組まれた実践の数々です。

課題として、本計画に基づいた各校における学校図書館教育全体計画の作成、小・中学校９年間を見通した学校図書館活用教育の連携、資源共有を視野に入れた各校の蔵書構築、司書教諭と学校司書、担任、教科担任の連携と機能などがあります。

計画策定の目的

狛江市教育振興基本計画（平成23年３月策定）において、狛江市の教育目標を達成するため、以下の３つの基本方針を定めているところです。

「生命及び人格・人権尊重の精神」と「社会貢献の精神」の育成

「確かな学力」の向上と「豊かな創造力」の伸長

「地域の教育力」の向上と「社会教育活動」の推進

本計画は、この３つの基本方針を踏まえつつ、子どもが自主的に読書活動をすることができる読書環境の整備・充実を図るために策定するものであり、子どもの読書活動の推進に取り組み、豊かな人間性を育むために、家庭、地域、学校、市立図書館それぞれの連携を促し、子どもの読書活動の向上を推進することを目的とします。

計画策定の基本方針

この計画は、国が策定した「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第二次）」及び「第二次東京都子供読書活動推進計画」を参考として、狛江市における子どもの読書活動に対する現在の取り組みを踏まえ、その整備と充実を図るために策定します。

計画の期間

平成 25 年度から平成 29 年度までの５年間の計画とします。なお、今後の社会情勢や国・東京都における改正等があった場合には、必要に応じて見直しを行います。

計画の対象

対象年齢は、０歳から 18 歳までの子どもとします。

Ⅰ　本編

乳幼児（０歳～２歳）

赤ちゃんの心の発達には温かな語りかけが必要です。ぬくもりの中で優しいことばを聞き、人と心を通わせて信頼関係を築くことで成長していきます。わらべうたや絵本の読み聞かせは、親子がふれあうためのきっかけを作る役割を果たします。父母やその他の保護者による積極的な語りかけの重要性について広く理解を促し、家庭での実践につながるよう努めます。

《図書館における現在の取り組み》

１　乳幼児へのはたらきかけ

A　年齢に適した資料の収集と提供

乳幼児の好奇心や感性を養うのに有用で、特に長く読み継がれている絵本を中心に、よりよい絵本を選定し収集しています。また、数ある絵本の中から、特に乳幼児向けの絵本を集めたコーナーを設置し、手に取る保護者が選びやすい工夫をしています。

B　推薦絵本リストの作成

「赤ちゃんに贈るファーストブック　０・１・２歳児に読んであげたい絵本」では、初めて赤ちゃん絵本を選ぶ人にもわかりやすく、月齢に応じた絵本を紹介しています。

C　ブックスタート運動の啓発

狛江市在住のすべての乳児を対象に、３・４か月児健康診査の会場で絵本の読み聞かせを実演しながら、主に乳幼児期の読み聞かせの方法を伝えています。同時に、推薦絵本リストや図書館の利用案内と共に赤ちゃん絵本を贈呈しています。

D　おはなし会の実施

「親子で楽しむおはなし会」を月２回定期的に実施しています。０・１歳児と２・３歳児に分けて、それぞれの会でわらべうた・手遊び歌を交えながら絵本の読み聞かせを行い、「ことば」の習得や「おはなし」の世界への導入となる機会をつくります。

２　取り組みをサポートする方へのはたらきかけ

E　ブックスタート説明員の研修

１組ずつ対面して説明を行うブックスタート形式を採用しているため、説明員によって情報量に差が生じないよう情報伝達能力と意識確認のための機会を設けています。

【ブックスタートの様子】

F　おはなしグループとの連携

地域で活動するおはなしグループに協力を要請し、定期的なおはなし会の開催とそれに伴う連絡会や勉強会を実施しています。

《図書館におけるこれからの取り組み》

近年、赤ちゃん絵本の出版点数が増加しています。絵本を遊具と捉え、様々な趣向や仕掛けが施されたものも数多く出版される中、優良絵本として子どもに手渡したい作品は限られています。図書館は長く読み継がれる基本となる絵本を提供すると共に、図書館員は選書の力を身に付け優良絵本を見極めていくことが必要です。

乳幼児向けのおはなし会は、市内のおはなしグループの協力で定期的な開催を 15 年以上続けています。平成 23 年度からは平日に参加できない人のために、月１回程度、土曜日の開催を試行しています。普段は参加できない共働きの世帯や積極的な父親の参加も見られることから定期的な開催に向けて試行を続けていきます。

ブックスタートは、乳児健診の会場で行っていますが、妊娠中の人や子育てに関わるすべての人を対象とした専門家による講演会や啓発講座の実施を検討していきます。

幼児（３歳～５歳）

絵本の内容を理解し、ストーリーを追って長めの作品を聞くことができるようになる「読み聞かせの黄金期」です。かな文字を覚えだすと、自分でも絵本を開いて読もうとしますが、同時におはなしの世界を理解しながら楽しむのはまだ難しい年頃です。物語絵本の他にも、生活絵本、知識絵本、科学絵本、ことばあそび絵本など、想像力を養う様々な絵本とであう機会をつくり、日常生活の中で絵本を身近に親しむことができるようサポートします。

《図書館における現在の取り組み》

1　幼児へのはたらきかけ

A　年齢に適した資料の収集と提供

幼児期になると様々な絵本の他に、乗り物や生き物、折り紙やあそびの本などにも興味を示します。物事への関心や興味を育み、幼児が身近な生活を追体験できるような本を収集すると共に、推薦絵本について常設の展示コーナーを設置しています。

B　推薦絵本リストの作成

「図書館で会える絵本」では、３歳～６歳児を対象として、就学前に読んでほしい基本絵本をテーマごとに紹介しています。また、年１回発行の「このほんしってる？」では、前年に出版された新刊の中から推薦する絵本を選定し紹介しています。

C　特別な支援を必要とする子どものための資料

布の絵本や点字図書・点字絵本、大活字本、外国語を日常語とする子どものための図書や絵本を収集しています。布の絵本や点字絵本は、ボランティアの協力を得て製作しています。

D　おはなし会の実施

◇こどもおはなし会

週１回、４歳以上の子どもを対象に実施しています。絵本の読み聞かせの他、ストーリーテリングや紙芝居、手遊び歌、折り紙工作などを交え、季節の行事や伝承遊びにも興味を持たせるような内容としています。

◇土曜日おはなし会

月１回程度、季節の行事やイベントに併せて実施しています。２歳～６歳児の親子を対象に、平日に参加できない共働きの世帯や父親との参加の機会を提供しています。また、親子で楽しむおはなし会からこどもおはなし会へのゆるやかな移行を促す機会としています。

◇特別おはなし会

普段図書館に来館できない子どもたちにも参加を促し、ゲスト講師を招いての特別プログラムや夏休み・クリスマスなどにも開催しています。

２　取り組みをサポートする方へのはたらきかけ

E　実技講座の実施

保護者や子どもの読書活動に関わる大人のために、読み聞かせの方法やおはなし会の小道具製作などを学ぶ児童行事実技講座を実施しています。他に、布の絵本や絵本点訳の製作グループの養成も行っています。

F　集会行事用資料の収集と提供

おはなし会活動や保育園･幼稚園で集団に対して読み聞かせなどを行う人のために、大型絵本や大型紙芝居、パネルシアター、エプロンシアターなどを揃えています。

G　おはなしグループとの連携

地域で活動するおはなしグループに協力を要請し、定期的なおはなし会の開催とそれに伴う連絡会や勉強会を実施しています。

H　団体貸出

保育園や児童関連施設、おはなしグループに団体貸出を行っています。

《図書館におけるこれからの取り組み》

ここ数年、子どもおはなし会の参加者が低年齢化しています。親子で楽しむおはなし会からの継続参加により、4・5歳の子どもとその保護者が中心です。小学校低学年までを主な対象に長年開催してきましたが、曜日設定や開催時刻などニーズに合わせた見直しを念頭に置いて定例おはなし会のあり方を検討しながら、土曜日おはなし会や親子参加の会を拡充します。

また、特別資料として地域でおはなし会活動をする人のための大型絵本や紙芝居などの収集とともに、布の絵本や点字絵本の自館製作にも取り組み、製作ボランティアグループの活動支援と人材育成にも力を注ぎます。おはなし会をはじめとする様々な図書館活動には地域住民の協力が必要不可欠です。子どもたちの読書環境を整備する上で、互いに連携し地域ぐるみで育む活動の中心拠点となるよう努めます。地域センター図書室に関しては、資料の選書及び配架等に関し、今後も相談に応じるなど支援していきます。他に、保育園や児童関連施設へ絵本セットの貸出準備、ニーズの把握に努めていきます。

小学生（6歳～12歳）

小学校の取り組み

【1年生･2年生】

小学校に入学した子ども達にとって、お話の世界の楽しさを実感できることはこれから始まる読書活動にとってとても大切なことです。そこで読み聞かせを聞き、お話の世界を楽しむ力を段階を追って育てます。絵や写真を見てイメージを膨らませ、楽しんで読む力を育てます。次に学校図書館活用の入門期にあたるこの時期は、自分で読みたい本を書架から探せる、選べるようにはたらきかけます。絵本が十分読めるようになった子ども達には簡単な幼年童話を紹介し、少し長い物語を終わりまで読み通せるような力を育てています。

《学校における現在の取り組み》

A　担任・学校司書によるはたらきかけ

読み聞かせ

担任や学校司書による読み聞かせは、何よりも日常的に子ども達が本の世界の楽しさを感じ、次は自分で読みたいという意欲をもつようになります。ひとり読書ができるようになっても、読み聞かせは継続され、担任や学校司書による恒常的な読み聞かせは読書意欲を持続させ、読書の質を向上させる有効な手立てとなっています。また、学校司書が配置されていることで子どもたちは「学校図書館」という新しい世界に親しみをもつことができます。さらに子どもたちの反応から教師も子ども向けの本への関心が高まり、自身も手に取るようになるなど、相互に良い影響を与える姿も見られます。

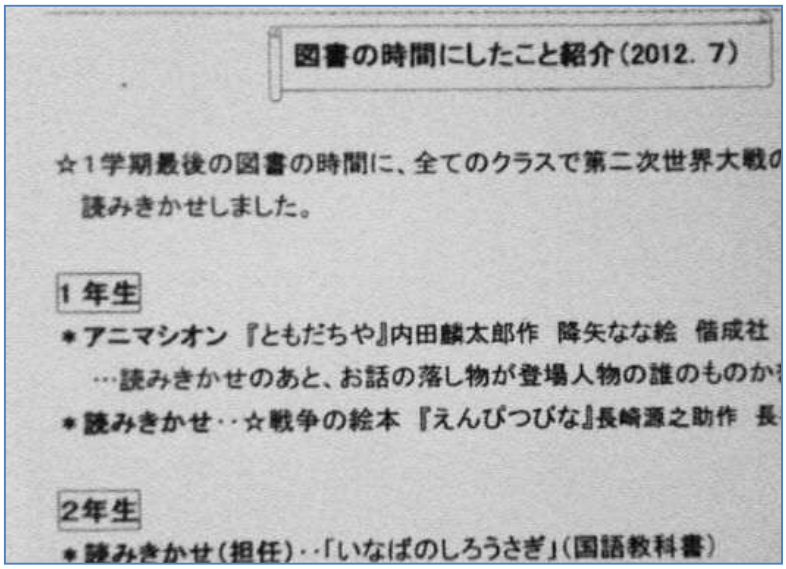
学校司書によるアニマシオン、ブックトーク

専門職である学校司書によるアニマシオンでは集団で読書の楽しさを体験でき、ブックトークはひとり読書ができるようになった子どもの読書の幅を広げる良い機会となっています。

B　児童による読書交流

読んだ本を紹介するなど読後の簡単な感想を伝え合う活動は良い刺激となっています。

「全校読み聞かせ集会」を実施している学校では、上級学年が下級学年に読み聞かせることで読書を媒体としたコミュニケーション力を育てています。


図書の時間にしたこと紹介（2012. 7）

☆１学期最後の図書の時間に、全てのクラスで第二次世界大戦の
読みきかせしました。

１年生

＊アニマシオン『ともだちや』内田麟太郎作　降矢なな絵　偕成社
…読みきかせのあと、お話の落し物が登場人物の誰のものか

＊読みきかせ‥☆戦争の絵本『えんぴつびな』長崎源之助作　長

２年生

＊読みきかせ（担任）‥「いなばのしろうさぎ」（国語教科書）

C　読書週間・月間の実施

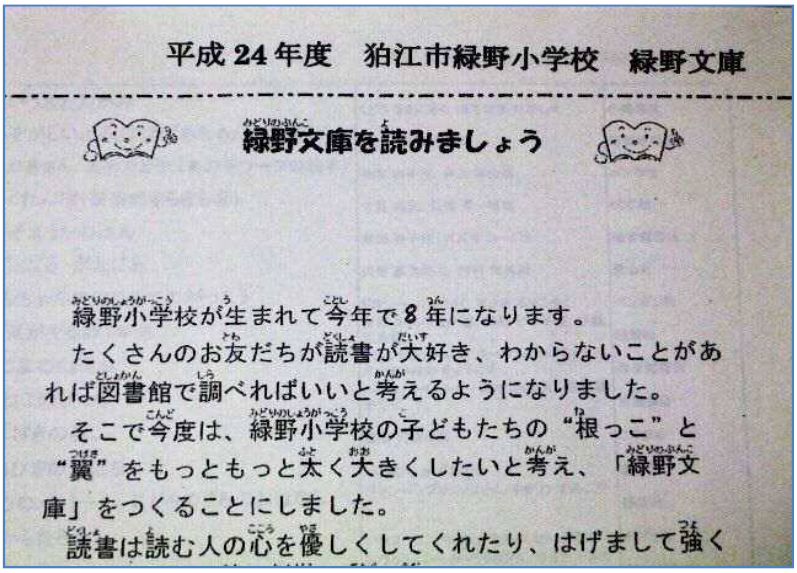
年１～２回の読書週間や読書月間では、子ども達の読書への関心を高め読書量を伸ばしています。全教師による読み聞かせや「朝の読書」などを全校的な規模で行っている学校もあります。

D　保護者・地域ボランティアによる読み聞かせ、ストーリーテリング

担任、学校司書以外の人による読み聞かせは子どもたちにとって新鮮であり、読書の楽しさや幅を広げるのに良い影響を与えています。また耳から聞いたことをイメージ化して楽しむストーリーテリングは集中してお話の世界にひたる良い機会となっています。

E　学級文庫の設定

本が身近にあることで、ちょっとした隙間の時間にも本を手に取ることができ、身近に本のある生活や読書の習慣化を図る上で有効な手だてとなっています。



平成 24 年度　狛江市緑野小学校　緑野文庫

緑野文庫を読みましょう

緑野小学校が生まれて今年で 8 年になります。
たくさんのお友だちが読書が大好き、わからないことがあれば図書館で調べればいいと考えるようになりました。
そこで今度は、緑野小学校の子どもたちの“根っこ”と“翼”をもっともっと太く大きくしたいと考え、「緑野文庫」をつくることにしました。
読書は読む人の心を優しくしてくれたり、はげまして強く

《学校におけるこれからの取り組み》

１年生の入門期はいつでもどこでも読み聞かせを心がけ、お話の世界が楽しいという実感を一層もたせるようにします。図書の時間に読む本の選定には司書教諭、学校司書、担任が連携し発達段階にそった絵本をあらかじめ選び、面出しをして選ばせるなど１年１学期は細かい手だてを打つ必要があります。また絵には描かれていない場面や情景をイメージする力が育つ時期であることを踏まえ、「狛江　本の森　学校図書館　活用ノート」に紹介されている本を進んで読むよう日常的にはたらきかけます。

読む力を育てるためには読んだ本について「読書クイズ」を行うなど、読書の力を育てるはたらきかけの工夫を図ります。さらに学級文庫の充実など手を伸ばせば本がある環境づくりを一層進めます。

【3年生･4年生】

絵本・幼年童話から児童文学に移行する大事な節目にあるこの時期は、児童文学のおもしろさを実感する体験を積み重ねさせます。児童文学だけでなく興味や関心のある事柄について知識を広げる読書もできる力を育てます。また、子ども達の読書の力に差が出ることを踏まえ、一人一人の力に応じたはたらきかけをすることで読書の力を伸ばします。

《学校における現在の取り組み》

A　担任・学校司書によるはたらきかけ

学校司書によるアニマシオン、ブックトーク

専門職である学校司書によるアニマシオンでは集団で考え合う読書の楽しさを体験でき、ブックトークでは自分一人では手に取らないような読み物や知識の本の魅力を知ることができ、読書の幅を広げる良い機会となっています。

学校によっては「二分の一成人式」に向けて主人公が十歳の物語をブックトークするなど、発達に合わせた取り組みを始めているところもあります。

B　児童による読書交流

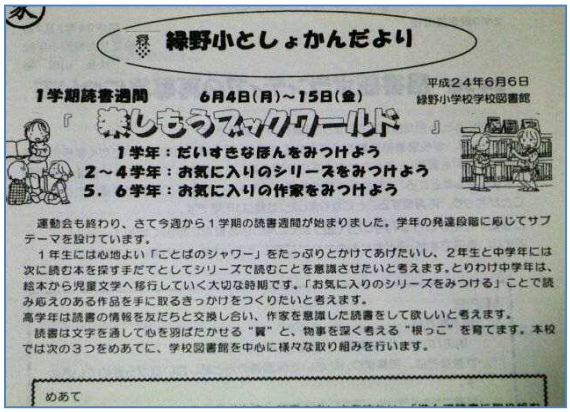
今まで読んだ本の中から友達向けに選書する「おすすめカード」の作成や掲示は、お互いの読書経験から読書活動に影響し合う姿が見られ、子ども同士の日常会話に読書の話が聞かれるようになっています。さらにコメントを簡潔に書く力も伸ばしています。

C　読書週間・月間の実施

年１～２回の読書週間や読書月間は、全教師が読み聞かせを行ったり朝の読書を行ったりするなど、全校的な規模で行われることにより、子ども達の読書への関心を高め読書量を増したりや読書の質を高めたりしています。

D　学校図書館便りの発行

児童向け、保護者向けに出されている学校図書館便りは新刊紹介が家庭の話題になるなど子どもの読書への関心や学校図書館が学習にリンクした場であることの理解を得る一助になっています。


緑野小としょかんだより

平成24年6月6日
緑野小学校学校図書館

1学期読書週間　6月4日(月)～15日(金)

『楽しもうブックワールド』

1学年：だいすきなほんをみつけよう
2～4学年：お気に入りのシリーズをみつけよう
5．6学年：お気に入りの作家をみつけよう

運動会も終わり、さて今週から１学期の読書週間が始まりました。学年の発達段階に応じてサブテーマを設けています。
１年生には心地よい「ことばのシャワー」をたっぷりとかけてあげたいし、２年生と中学年には次に読む本を探す手だてとしてシリーズで読むことを意識させたいと考えます。とりわけ中学年は、絵本から児童文学へ移行していく大切な時期です。「お気に入りのシリーズをみつける」ことで読み応えのある作品を手に取るきっかけをつくりたいと考えます。
高学年は読書の情報を友だちと交換し合い、作家を意識した読書をして欲しいと考えます。
読書は文字を通して心を羽ばたかせる“翼”と、物事を深く考える“根っこ”を育てます。本校では次の３つをめあてに、学校図書館を中心に様々な取り組みを行います。

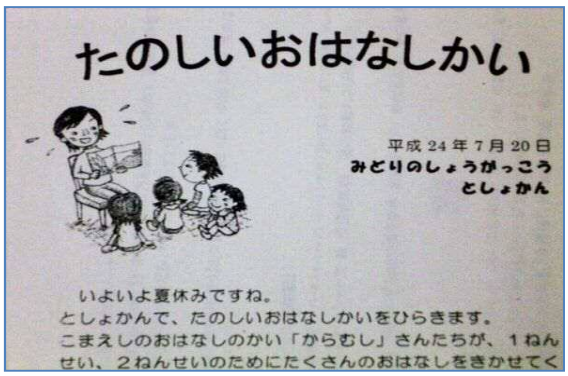
めあて

E　保護者・地域ボランティアによる読み聞かせ、ストーリーテリング

担任、学校司書以外の人による読み聞かせは子どもたちにとっても新鮮であり、読書の楽しさや選書の幅を広げることに良い影響を与えています。また耳から聞いたことをイメージ化して楽しむストーリーテリングは集中してお話の世界にひたる良い機会となっています。

F　学級文庫の設定

本が身近にあるという環境整備をすることで、少しの空白時間でも本を手に取ることができ、この時期に読書習慣を身につける大切な読書環境となっています。


たのしいおはなしかい

平成 24 年 7 月 20 日
みどりのしょうがっこう
としょかん

いよいよ夏休みですね。
としょかんで、たのしいおはなしかいをひらきます。
こまえしのおはなしのかい「からむし」さんたちが、１ねんせい、２ねんせいのためにたくさんのおはなしをきかせてく

《学校におけるこれからの取り組み》

絵本・幼年童話から児童文学に移行する大事な節目にあることを踏まえ、ブックトークやアニマシオンなど興味をもたせるはたらきかけの工夫をします。今後の長編読書の基礎を育てるために意識的に長文の物語を取り上げて読み聞かせをしたり、外国の児童文学を積極的に紹介したりします。また読書が苦手な子ども達に対しては、一人一人に合った読書教材を用意するなどきめ細やかな取り組みを進める必要があります。また、「狛江　本の森　学校図書館　活用ノート」に紹介されている本を進んで完読するようはたらきかけます。

【5年生･6年生】

子どもたちにとって楽しみとしての読書であると共に、読書を通して自分の考えを広げ深められる自分を育てる読書の力を伸ばすことが必要な時期です。そのためにノンフィクションなど読書の対象を幅広く広げ、読み通すことができるようはたらきかけます。

《学校における現在の取り組み》

A　担任・学校司書による読み聞かせ

読み聞かせは低学年を中心に行われていますが、高学年の子ども達にとっても物語の世界のおもしろさを味わう上で有効な手立てとなっています。読み聞かせされた本を積極的に借りる姿は珍しくはありません。持続してはたらきかけられている児童は読書意欲や読書の質も向上するなどの成長が見られています。また読書の量に比例して読みの速度も速くなり、目的に合わせた読書ができる子どもが育ちます。

B　学校司書によるブックトーク、アニマシオン

専門職である学校司書によるブックトークやアニマシオンの実施は、子どもの読書の幅を広げ集団で読書の楽しさを体験する良い機会となるばかりでなく、自分からは手に取らない作家やジャンルの本を読むきっかけとなっています。さらに教科の学習を深めるための資料の提供に際してのブックトークは、学習への意欲を向上させる役割を果たしています。

C　児童による読書交流

本の紹介の「おすすめカード」の作成、掲示を行うことで、友達の読書から影響を受けたり、自分の読んだ本を友達が読んだりする姿が見られます。子ども同士の日常会話に読書の話が聞かれ、コメントを簡潔に書く力も伸ばしています。

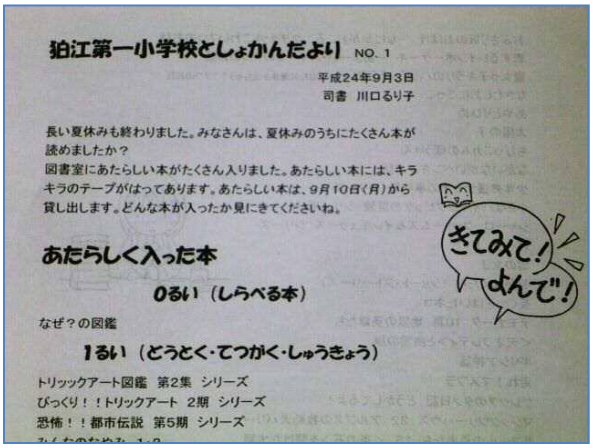
「全校読み聞かせ集会」を行っているところでは、高学年は下学年に読み聞かせるために、聞く学年にふさわしい本を選書する機会を与えられ、聞き手に伝わることを意識してもう一度絵本や短編を読み直すことで読む力、表現する力をつけています。また、下学年にとっては読書を媒体とした新しい形のコミュニケーションを育っています。

D　読書週間・月間の実施

子どもの読書力の課題にそったテーマを決めて読書週間や読書月間を実施しているところでは、どんな本を読むか子ども達のめあてがはっきりし、また全校的な規模で行われることにより読書量の増加や読書の質の向上が見られます。この期間に図書委員が読み聞かせをする活動を行う学校もあります。

E　学校図書館便りの発行

児童向け、保護者向けに出されている学校図書館便りは新刊紹介が家庭の話題になるなど、子どもの読書への関心や学校図書館が学習にリンクした場であることの理解を得る一助になっています。また図書館便りで紹介された本は予約貸し出しが増加する傾向があります。



F　保護者・地域ボランティアによる読み聞かせ、ストーリーテリング

担任、学校司書以外の人による読み聞かせは子どもたちにとって読書の幅を広げる良い影響を与えています。耳から聞いたことをイメージ化して楽しむストーリーテリングは集中してお話の世界にひたる良い機会となっています。

G　学級文庫の設定

本が身近にあることで、少しの空白時間を活用して本を手に取ることができ、読書の習慣化に役立っています。

《学校におけるこれからの取り組み》

長編が無理なく読めるような読書力を育てるためにチャレンジ読書などに積極的に取り組んだり知識やノンフィクションの分野にも読書が広がるようなはたらきかけを工夫したりします。子ども達が進んで「狛江　本の森　学校図書館　活用ノート」に紹介されている本を完読しようとするようはたらきかけを担任、司書教諭、学校司書が連携を強めながら行います。

【特別な支援を必要とする子どもたちの読書活動について】

児童生徒の教育的ニーズに応えながら学校図書館は読書活動、学習活動を支援します。

《学校における現在の取り組み》

子どもたちの発達段階に合わせた本の読み聞かせや紹介、学習に活用できる資料の提供を行っています。また固定級では語りのボランティアの会「からむし」や「おはなしカメさん」による定期的なストーリーテリングや読み聞かせ等を実施しています。通級学級の指導のために教師への資料相談、資料提供も行われています。

義務教育終了後または高校卒業後も読書を通して生活を豊かにするために、図書貸出券を作成し公共図書館利用に慣れる取り組みもあります。

《学校におけるこれからの取り組み》

特別な支援を必要とする児童生徒の教育的ニーズに応えるためのメディアの収集・整理をし、必要な支援を行います。

絵本の読み聞かせを十分に楽しめるようになり、徐々に活字本へ移行していきます。自分で読みたい本を選び、保護者の手を離れて来館するようにもなるので、図書館を利用する個人登録者としての自覚が芽生えるようにはたらきかけます。また、学校で過ごす時間が増えるため、直接的な利用指導や読書習慣を培う役割を担う学校図書館への支援を重視します。

《図書館における現在の取り組み》

1　小学生へのはたらきかけ

A　年齢に適した資料の収集と提供

読書入門期の子どもたちが、自ら自由に本を選ぶ楽しみを手助けするため、低書架に幼年童話を集めています。また、読みたい本が選べない子どもたちにも良い本とのであいを助けるため、学年別の推薦図書コーナーを常設しています。特に市立小学校が作成し、読書指導に活用している絵本や図書も十分に複本を揃え、夏休みの課題や読書週間などに対応できるようにしています。日頃から各校の学校司書と連携し、教科学習に関する情報にも配慮し、「郷土学習資料」コーナーを設置するなど、学習面を支援する資料も充実させています。

B　推薦図書リストの作成

「読書のみちしるべ」では、小学１年生から６年生まで各学年 24 冊ずつ、読み物を中心に絵本やノンフィクションを交えて紹介しています。また、年１回発行の「このほんしってる？」（１・２年生／３・４年生／５・６年生）では、前年に出版された新刊の中から推薦する図書を選定し紹介しています。

C　小学生向け行事の実施

◇子ども一日図書館員

小学４～６年生を対象に、夏休みに実施しています。図書の貸出･返却や装備実習などを体験し、子ども時代からの図書館利用を促進しています。

◇科学あそび教室

小学１・２年生と３～６年生に分けて開催しています。簡単な理科実験や科学工作を楽しみながら、普段図書館を訪れることが少ない子どもたちにとっても親しむきっかけをつくっています。

◇子ども読書の日（4月 23 日）

図書の展示や特別おはなし会の他、趣向を凝らした内容で子どもたちやその保護者にとって読書や図書館との架け橋になる企画を実施しています。

D　特別な支援を必要とする子どものための資料

大活字本や点字図書・点字絵本、布の絵本、外国語を母語とする子どものための図書や絵本を収集しています。布の絵本や点字絵本は、ボランティアの協力を得て製作しています。他に、市立小学校の特別支援学級による施設見学時には、図書館利用や資料に関する案内を行っています。

2　取り組みをサポートする方へのはたらきかけ

E　実技講座の実施

保護者や子どもの読書活動に関わる大人のために、読み聞かせの方法やおはなし会の小道具作成、絵本の修理・製本などを行う児童行事実技講座を実施しています。他に、布の絵本や絵本点訳の製作グループの養成講座も行っています。

F　集会行事用資料の収集と提供

おはなし会活動や学校などで集団に対して読み聞かせなどを行う人のために、大型絵本や大型紙芝居、パネルシアター、エプロンシアターなどを揃えています。

G　図書館ホームページ内・こどもページの活用

平成 24 年 7 月に新設した「こどもページ」では、子どもに向けた情報発信と共に、子どもの読書活動に関する大人に向けた情報や取り組みについても特集しています。

3　小学校・学校図書館との協力連携

H　団体貸出

学校図書館を主な連携の窓口として各学校へ団体貸出を行っています。週 2 回、学校専用の配送便を運行し、学校間の相互貸借にも利用されています。

I　セット資料、学級文庫用図書の提供

学習テーマに沿った資料セットや集団読書用の複本セットを揃えています。また、各学級に設置するための学級文庫用の図書を年間貸出しています。

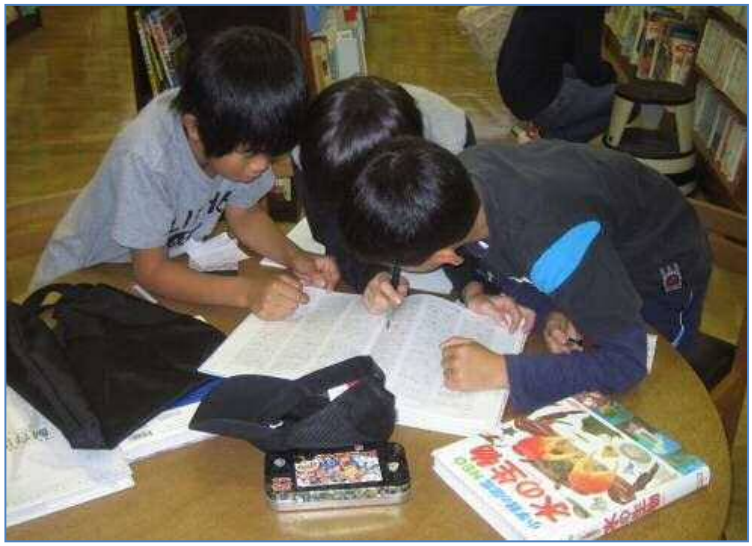
Ｊ　図書館施設見学の受入

学校からの要望に応じて、主に小学２・３年生を対象に施設見学を実施しています。利用案内やブックトーク、個人の図書貸出券の作成などを行っています。

《図書館におけるこれからの取り組み》

平成 12 年度に学校司書を市内の小・中学校に全配置、その後、平成 14 年度に学校図書館への物流サービスを開始して 10 年が過ぎました。その間、学校図書館に関する文部科学省指定事業への協力支援に尽力し、図書館と学校図書館との結びつきがより強固なものとなりました。読書活動に関する取り組みの成果はすぐに現れるものではありませんが、近年特に、放課後や土日曜に来館する子どもたちの姿に、はっきりとそれが感じられます。例えば、宿題の調べ物や自分で興味を持ったこと、読みたい本について自ら探索する力が身につき、10 年前当時と比べて格段に図書館利用が上手になっています。引き続き学校での取り組みを支援するとともに、地域の場においても子どもたちが読書を身近に感じる機会を提供し、その保護者や地域ボランティアの活動支援、啓発事業に取り組みます。

また、ブックスタート事業開始から 10 年が経過する平成25年度には、新小学 1 年生に対する読書推進の一環としてセカンドブック事業を開始します。



中学生・高校生等（13 歳～18 歳）

中学校の取り組み

共感したり感動したりする本とのであいをつくり、文学に限らず知的な関心を高めるような分野に読書の幅を広げます。自分の考えと比べながら読むなど、読書を通して考えを広げたり深めたりする力を伸ばします。そのために読書会など集団で読み合うことや教科学習に読書を活用できる力を育てます。

《学校における現在の取り組み》

A　学校司書による読み聞かせ

朝読書に学校司書が教室で読み聞かせを行っている学校では、生徒が大変集中して聞く姿が見られます。読書週間に図書委員が読み聞かせを行うところでは、選書・読み聞かせる力が要求されるため図書委員の生徒達が真剣に取り組む姿が見られます。

B　学校司書と図書委員によるブックトーク

専門職である学校司書によるブックトークは読書に限らず学習資料についての情報も提供する機会となっています。図書委員がブックトークを行う学校もあります。そこではブックトークの原稿を書き、発表するにあたって司書教諭が指導にあたりました。

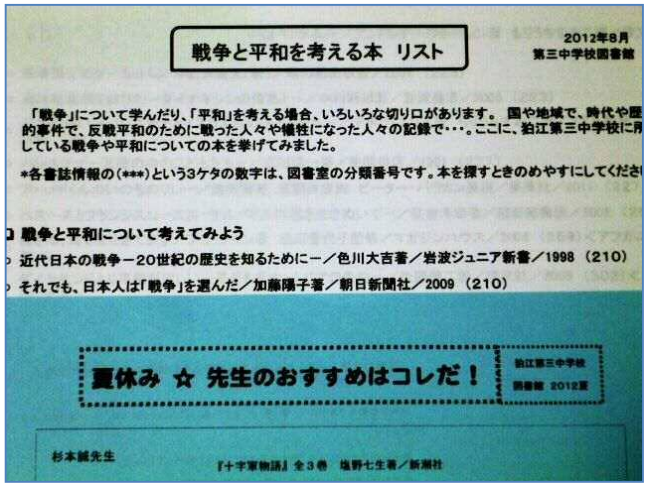
実施後は紹介した本の貸出や予約が増えたり本の話題が増えたりしています。活字離れが言われる学齢期ですが、本と生徒の間に人の存在があり、生き生きと語りかける手立てがあれば読書を楽しむことができることを示しています。

C　展示コーナーの設置

展示コーナーの設置は、図書館の蔵書を知るきっかけとなり、特にテーマを設けた展示コーナーには興味や関心を寄せるだけでなく、実際に手に取って読む様子が見られます。学校図書館が生徒に発信することで読書のきっかけがつくられています。

D　リストや配布物の発行

「夏休み☆先生のおすすめはコレだ」「戦争・平和に関する本リスト」などを発行しているところでは教師と生徒の間で本の話題が増えたり、夏休みの読書の参考にしたりするようになりました。学習に関する資料リストは資料を選ぶ際の道しるべとなっています。


戦争と平和を考える本　リスト

2012年8月
第三中学校図書館

「戦争」について学んだり、「平和」を考える場合、いろいろな切り口があります。 国や地域で、時代や歴的事件で、反戦平和のために戦った人々や犠牲になった人々の記録で・・・。ここに、狛江第三中学校に月している戦争や平和についての本を挙げてみました。

*各書誌情報の(***)という3ケタの数字は、図書室の分類番号です。本を探すときのめやすにしてくださ

戦争と平和について考えてみよう

近代日本の戦争－20世紀の歴史を知るために－／色川大吉著／岩波ジュニア新書／1998（210）

それでも、日本人は「戦争」を選んだ／加藤陽子著／朝日新聞社／2009（210）

夏休み ☆ 先生のおすすめはコレだ！

狛江第三中学校
図書館 2012夏

杉本誠先生

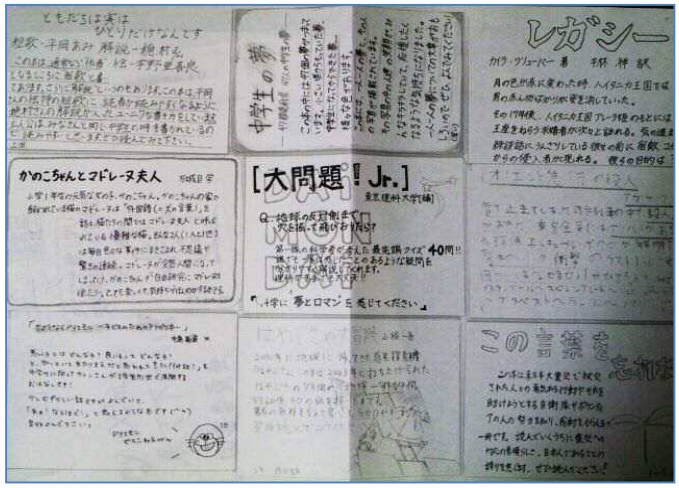
『十字軍物語』全3巻　塩野七生著／新潮社

E　生徒による読書交流

図書委員会がＰＯＰを作成しオススメの本を展示することでよく借りられるようになっています。

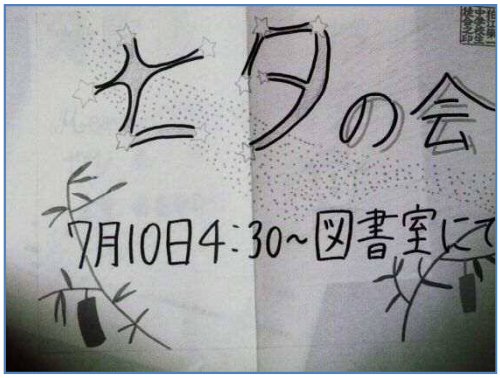
作成する図書委員にとっても選書、読む力、書く力などが求められ、学びの機会となっています。

また図書委員が毎月「図書委員会便り」を発行し、生徒に情報発信している学校もあります。



F　読書週間・月間の実施

読書週間・月間が設定されると学校図書館を利用する生徒が増え、お薦めの本を予約、借りていく姿が見られます。

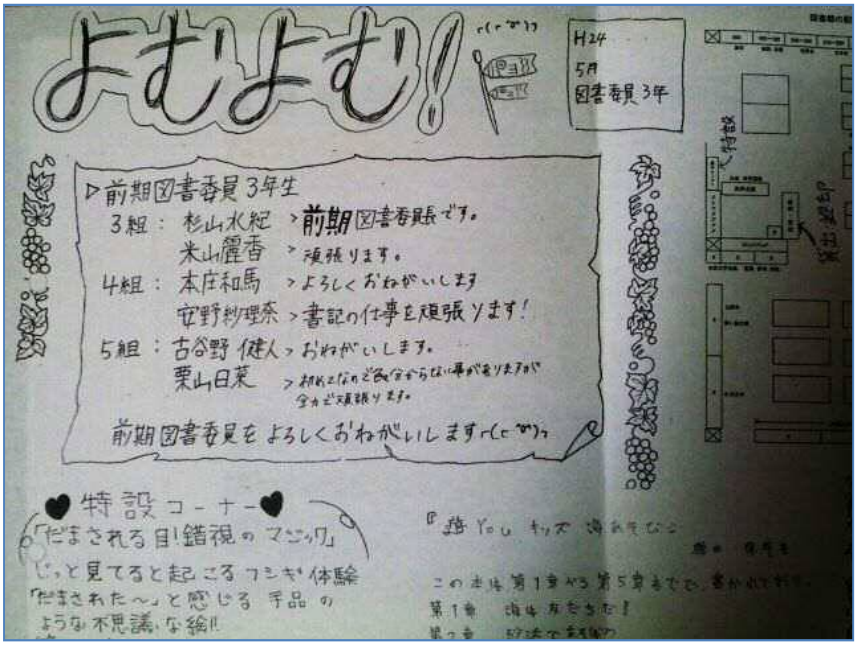


G　学校図書館便りの発行

中学生にとっては授業としての図書の時間がとれなくなるため、図書館便りの新刊紹介などが関心をもって読まれています。紹介した本は予約数が増加し、生徒の間で本の話題が増えています。

H　学級文庫の設定

忙しい中学生ですが、本が身近にあることで少しの時間でも本を手に取ることができます。図書委員が選定し年３回入れ替えるなど読書環境を整えている学校もあります。



《学校におけるこれからの取り組み》

生徒が「読書は自分を育てていくものだ」と実感がもてるような、自分に引き寄せた深い読書を体験させるために、少人数グループに分かれての読書会など、工夫した取り組みを行います。日常生活での読書を根づかせるために、朝読書など学校体制としての読書時間を設けられるような方向を探っていきます。

さらに読み物を読む力だけでなく、教科学習に学校図書館の資料を読んで活用できる力を育てる取り組みを工夫します。

市立図書館の取り組み

ＹＡ（ヤングアダルト）世代はさまざまに内面が揺れ動き、生き方を模索している時期です。周囲の大人たちの助言に加え本を読むことにより追体験できる物事のとらえ方、思考の深まりは欠かせません。一方で、中高生になると部活動などで帰宅時間が遅くなり、ますます学校で過ごす時間が増え、図書館に来館する機会が減少します。受験勉強や趣味の活動で多忙な毎日を過ごすＹＡ世代の図書館利用率は年齢と共に低くなっていきます。小学校時代に培った読書習慣がここで途切れてしまうことのないよう、中学校図書館等との連携支援に取り組み、幅広いニーズに応える蔵書構成に努めます。

《図書館における現在の取り組み》

１　中学生・高校生等へのはたらきかけ

Ａ　年齢に適した資料の収集と提供

自己を確立し社会性を身につけていく過程において必要な本とのであいづくりを大切にします。利用対象となる資料は児童書から一般書にも広がり、さらにその中間に位置するＹＡ向けの資料も存在します。それらを効率よく探し出すことができるように、ＹＡコーナーを設置したり、対象資料にカラーラベルを貼付したりして手に取りやすいよう工夫しています。

Ｂ　推薦図書リストの作成

年１回発行の「Books for you」では、前年に出版された新刊児童図書の中から、推薦する図書を選定し紹介しています。他に、職場体験生の薦める本やコミュニケーションノートに寄せられたコメントから同世代が薦める本を紹介するリーフレットなどを発行しています。

Ｃ　図書館利用の啓発・ＰＲ

◇YA（ヤングアダルト）向けの情報収集

出版情報や外部機関の読書に関する発行物を収集し、ＹＡコーナーにファイリングして置くことで旬の情報を自由に閲覧できるようにしています。

◇コミュニケーションノートの設置

ＹＡコーナーに自由に書き込めるノートを用意することによって、図書館員からの情報提供だけでなく、同世代の仲間同士の交流から読書意欲を喚起し、図書館への興味関心を持つよう促しています。

２　中学校･学校図書館との協力連携

Ｄ　団体貸出

各学校図書館を窓口に団体貸出を行っています。週２回、学校専用の配送便を運行し、学校間の相互貸借にも利用されています。

Ｅ　資料セット、朝読用図書の提供

職業調べや修学旅行の事前学習に役立つ資料セットを揃えています。また、朝の読書用の図書を要望に応じてセットで貸出しています。

Ｆ　職場訪問・職場体験の受入

中学校の職場体験や高等学校のボランティア体験の取り組みにより、それを実施する地域事業所の一つとして図書館で体験学習を行っています。職業への関心や進路選択のきっかけをつくり、本や図書館について理解を深めます。

《図書館におけるこれからの取り組み》

職場体験等で来館した中学生がその後に図書館を利用する姿を見かけることがあります。わずかな間に成長し顔つきも次第に大人びていく彼らにとって、多忙な学校生活の合間にも気軽に利用できる場所でありたいと考えます。

知的好奇心旺盛な年頃の要求に応えられる資料を収集し提供するのはもちろんのこと、この世代に特化した内容で、活字離れを抑制する取り組みを行っていく必要があります。

また、中学校だけでなく市内の都立狛江高等学校と積極的に情報交換をし、青年期の動向や興味関心に適したニーズの把握に努めていきます。

用語説明及び参考文献

《用語説明》

朝読書（p２、p25、p27）

文部科学省が、2001 年を「教育新生元年」と位置づけ、「21 世紀教育新生プラン」と銘打って、あいさつのできる子、正しい姿勢と合わせて、朝の読書運動を三つの柱の一つとして小・中・高等学校で読書を習慣づける目的で始業時間前に読書の時間を設けて始められた。

アニマシオン（p13、p16、p17、p18）

元来、アニマシオンとはラテン語で魂を生き生きさせるという意味であり、読書活動においては、子どもたちを本の世界に誘うための様々な手法の総称として「読書へのアニマシオン」としている。

読書へのアニマシオンとは、本の内容についてのクイズをグループで解き楽しむことを通して、読書のおもしろさや楽しさを伝えることである。読み聞かせやブックトークなども幅広い意味ではアニマシオンとなる。

エプロンシアター（p12、p23）

エプロンを舞台にした人形劇の形態の一つ。エプロンの必要な個所にマジックテープ凸と大きなポケットを付ける。人や動物の人形を多少立体的に作成し、マジックテープ凹を付けポケットにしまう。演者はポケットから人形を取り出しながら話を進め、舞台のエプロンに貼り付けていく。どこにでも手軽に持ち運びができ、舞台も背景も人形もすべて演者に密着していて演者の表情が人形の動きを豊かにしてくれる。

第 57 回読書調査（p２）

全国学校図書館協議会は毎日新聞社と共同で、全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況の調査を毎年５月１か月間に読んだ本の冊数等を実施している。

第 57 回読書調査の対象は、選定基準により全国から求めた調査対象校に在学する児童・生徒のうち、各学年につき１学級を選定。調査対象人数は小学生 2,569 人、中学生 3,316 人、高校生 4,124 人、合計 10,009 人から質問紙法で行っている。

ストーリーテリング（p11、p14、p17、p19、p20）

話し手が物語を覚え、語りかける活動で「素話（すばなし）」などともいわれる。読み聞かせとは違い、図書の仲だちなしに聴き手の顔を見ながら話をするのでコミ

ュニケーションがとりやすい。また聴き手は聞くことだけに集中するので場面や登場人物の心の動き、感情の高まりなどを想像しやすく、想像力を高めることができる。

ブックトーク（p13、p16、p17、p18、p24、p25）

１つのテーマに従って数冊の本を順序立てて紹介する活動。児童・生徒の読書の範囲を広げ、読書意欲を喚起することを目的とする。紹介した本はブックトークが終わってからテーブルに並べ、児童が手に取れるようにし、紹介リストをプリントして配付する。

パネルシアター（p12、p23）

パネル布またはフランネル地をベニヤ板等に貼りつけて舞台を作り、表現したいものを不織布（ふしょくふ）で絵人形にし、パネルに貼ったり、取ったりしながらお話を進めていく手法。

物語の展開によって絵人形を移動させ、あるいは裏返し、重ねるなど、様々な動きをさせることにより子どもたちをより引きつける。演じ方は子どもに向かって、いかに語りかけるか、絵を出すタイミングと語りがぴったり合っているかであり、語り手は話の内容をしっかり自分のものにしておくことが大切になる。

ヤングアダルト（p28）

主に 10 代の読者あるいは利用者を、児童と成人の中間に位置し独特の配慮を要する利用者層として図書館界・出版界で意識して呼称するときに使う用語。ＹＡと略すことが多い。

《参考文献》

『読書教育通論』　読書教育研究会編著　学芸図書　1995

『最新　図書館用語大辞典』　図書館用語辞典編集委員会編著　柏書房株式会社　2004

『シリーズ学校図書館学第４巻　読書と豊かな人間性』　「シリーズ学校図書館学」編集委員会・編　全国学校図書館協議会　2011

Ⅱ　資料

【資料1】

子どもの読書活動の推進に関する法律

平成13年12月12日　法律第154号

（目的）

第１条　この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

（基本理念）

第２条　子ども（おおむね18歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

（国の責務）

第３条　国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

（地方公共団体の責務）

第４条　地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

（事業者の努力）

第５条　事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

（保護者の役割）

第６条　父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

（関係機関等との連携強化）

第７条　国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

（子ども読書活動推進基本計画）

第８条　政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

２　政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。

３　前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

（都道府県子ども読書活動推進計画等）

第９条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

２ 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

３ 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。

４ 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

（子ども読書の日）

第10条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

２ 子ども読書の日は、４月23日とする。

３ 国及び地方公共団体は、子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

（財政上の措置等）

第11条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

○衆議院文部科学委員会における附帯決議

政府は、本法施行に当たり、次の事項について配慮すべきである。

１ 本法は、子どもの自主的な読書活動が推進されるよう必要な施策を講じて環境を整備していくものであり、行政が不当に干渉することのないようにすること。

２ 民意を反映し、子ども読書活動推進基本計画を速やかに策定し、子どもの読書活動の推進に関する施策の確立とその具体化に努めること。

３ 子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において、本と親しみ、本を楽しむことができる環境づくりのため、学校図書館、公共図書館等の整備充実に努めること。

４ 学校図書館、公共図書館等が図書を購入するに当たっては、その自主性を尊重すること。

５ 子どもの健やかな成長に資する書籍等については、事業者がそれぞれの自主的判断に基づき提供に努めるようにすること。

６ 国及び地方公共団体が実施する子ども読書の日の趣旨にふさわしい事業への子どもの参加については、その自主性を尊重すること。

【資料2】

平成 24 年度
「家庭における乳幼児期の読書環境に関するアンケート」の集計結果

1．本調査の目的、概要及び考察

2．平成 24 年度調査集計

3．平成 24 年度調査中乳幼児期と現在（小学1年生）との比較

4．平成 22 年度調査、平成 23 年度調査と平成 24 年度調査の比較

【参考】「家庭における乳幼児期の読書環境に関するアンケートのお願い」

1-1．本調査の目的

平成 22 年度から実施している本調査は、平成 15 年度に開始したブックスタート事業が7年を経過し、事業開始である 15 年度に対象であった子どもたちが小学校に入学した年に開始した。本調査の対象は当初、ブックスタート事業開始前の小学2年生及びブックスタート事業開始後の小学1年生の子どもがいる世帯並びに中央図書館や各図書室に来館している乳幼児のいる世帯とし、狛江の子どもの読書環境の現状を把握することで、ブックスタート事業による家庭での読書活動への効果とその実態を知ることで、図書館の児童サービスの向上と子ども読書推進に関する取り組みに反映させることを目的とした。

なお、平成 23 年度からは調査対象を市立小学校に通う小学1年生の子どもがいる世帯とし、継続的な調査を行い毎年のデータを比較することを目的とする。

1-2．本調査の概要

アンケート実施期間：　平成 24 年6月 11 日～7月6日　対象者：　市立小学校に通う1年生の子どもがいる世帯

	狛江第一小	狛江第三小	狛江第五小	狛江第六小	和泉小	緑野小	合計
配布数	72	76	91	90	86	81	528
回収数	55	59	59	62	55	55	345
回収率	76.4%	77.6%	64.8%	68.9%	64.0%	67.9%	65.3%

≪参考≫※ただし平成 22 年度については小学1年生のみを表記する。

	狛江第一小		狛江第三小		狛江第五小		狛江第六小		和泉小		緑野小		合計	
	23 年度	22 年度	23 年度	22 年度	23 年度	22 年度	23 年度	22 年度	23 年度	22 年度	23 年度	22 年度	23 年度	22 年度
配布数	100	97	65	92	87	99	87	82	100	94	98	102	528	566
回収数	89	57	33	51	30	59	53	44	70	59	57	60	332	330
回収率	89.0%	58.8%	50.8%	55.4%	34.5%	59.6%	60.9%	53.7%	70.0%	62.8%	58.2%	58.8%	62.9%	58.3%

1-3. 本調査の考察

「はじめての読み聞かせはいつ頃か」という問いでは、胎教として行った場合を想定した「妊娠中」は、前年に比べ 1.9 ポイント増加した。また、「8ヶ月未満」までで見てみると年々その割合が増加し、各年度とも 70%以上の家庭で読み聞かせを始めている。全体に開始時期が早まっている傾向がある。これは3・4か月児の健康診査時に実施しているブックスタート事業の影響も一因と考えられる。
「読み聞かせの頻度について」は、各年度とも 90%以上の家庭で週 1 回以上読み聞かせを行っている。また、乳幼児期に比べ、現在(小学1年生)では、読み聞かせの頻度が全体に少なくなり、「ほとんどしない」「したことがない」という回答が 25.5%に増加している。字が読めるようになり、読み聞かせの必要を感じなくなる保護者がいる一方、子どもの年齢が上がることで、親や子に時間的余裕がなくなってきていることがあげられる。
「読み聞かせをする人」は、各年度とも母親が多いが、年々父親の割合も増加してきている。父親も子育てに参加してきている状況が見てとれる。
読み手に対する「読んであげることは楽しいか」という問いに、「はい」と回答した割合が各年度とも 70%超えているが、「いいえ」と回答した割合は低い数字ではあるが、年々増加している。また、読み聞かせの目的では、「読み手の楽しみ」の割合も下がってきており、乳幼児への読み聞かせ活動が社会的に認知され広まっていく一方で、子育ての中で義務として感じている親もいるようだ。だが、「お子さんは本が好きか」という問いでは、各年度とも約 80%が「はい」と回答しており、子どもの身近に本があり親しむ機会が与えられた成果ともいえる。
「本を読む子を育てるには、何が必要か」という問いに各年度とも「家庭での読書習慣」をあげる方が多く、乳幼児期から読み聞かせを行うことの意義が、浸透してきている.
継続して調査を実施することによりデータを積み上げ、ブックスタート事業による家庭での読書活動への効果とその実態を把握し、図書館の児童サービスの向上と子ども読書推進に関する取り組みに反映させていきたい。

2. 平成24年度調査集計

1)乳幼児期の様子について

●はじめての読み聞かせはいつ頃ですか？

	妊娠中	4ヶ月未満	4ヶ月～8ヶ月未満	8ヶ月～1歳未満	1歳～1歳6ヶ月未満	1歳6ヶ月～2歳未満	2歳～3歳未満	3歳以上	覚えていない	無回答	合計	
第一小	5	11	18	5	7	2	2	0	2	3	55	
第三小	3	13	20	6	6	0	2	3	6	0	59	
第五小	5	23	11	5	6	3	1	0	3	2	59	
第六小	11	15	19	7	3	1	2	0	4	0	62	
和泉小	11	13	16	4	7	1	1	0	1	1	55	
緑野小	3	8	24	5	6	1	0	0	7	1	55	有効回答数
合計	38	83	108	32	35	8	8	3	23	7	345	338
	11.2%	24.5%	31.9%	9.5%	10.4%	2.4%	2.4%	0.9%	6.8%	—		

⇒ 読み聞かせを始める時期は、77.1%の家庭で1歳までに始めている。

●読み聞かせをどのくらいの頻度でしていましたか？

	ほぼ毎日	週2～4回程度	週1回程度	ほとんどしない	したことがない	無回答	合計	
第一小	17	25	10	1	0	2	55	
第三小	18	28	9	4	0	0	59	
第五小	24	25	7	1	0	2	59	
第六小	29	19	7	6	1	0	62	
和泉小	27	16	12	0	0	0	55	
緑野小	20	18	13	4	0	0	55	有効回答数
合計	135	131	58	16	1	4	345	341
	39.6%	38.4%	17.0%	4.7%	0.3%	—		

⇒ 95.0%の家庭で週1回以上読み聞かせを行っている。

●主に読みきかせをするのは、どなたですか？（複数回答）

	母親	父親	祖父母	その他	合計
第一小	53	26	7	1	87
第三小	59	23	8	3	93
第五小	56	38	10	7	111
第六小	61	32	8	4	105
和泉小	54	29	11	1	95
緑野小	55	25	8	4	92
合計	338	173	52	20	583
	58.0%	29.7%	8.9%	3.4%	

⇒　読み聞かせは、主に母親と父親であり、その他として、兄・姉・幼稚園の先生・保育士と回答があった。

●1回の読みきかせの時間は、どのくらいですか？

	15分以内	15～30分程度	30分～1時間程度	1時間以上	無回答	合計	
第一小	35	17	1	0	2	55	
第三小	45	12	1	0	1	59	
第五小	44	13	0	0	2	59	
第六小	44	15	2	0	1	62	
和泉小	36	16	1	1	1	55	
緑野小	37	17	1	0	0	55	有効回答数
合計	241	90	6	1	7	345	338
	71.3%	26.6%	1.8%	0.3%	—		

⇒　読み聞かせの時間は、「15分以内」が71.3%、「15～30分程度」が26.6%となり、97.9%の家庭で読み聞かせを行っている。

●お子さんに絵本を読んであげることは、楽しいですか？

	はい	いいえ	どちらともいえない	無回答	合計	
第一小	41	2	9	3	55	
第三小	42	1	16	0	59	
第五小	47	1	9	2	59	
第六小	41	0	18	3	62	
和泉小	45	1	6	3	55	
緑野小	41	3	10	1	55	有効回答数
合計	257	8	68	12	345	333
	77.2%	2.4%	20.4%	—		

⇒　「はい」と回答した方の多くは、「子どもが楽しそう」「子供が喜ぶ」など、子どもの反応に対して読んであげることが楽しいと答えている。
また絵本をとおしてのコミュニケーションをあげる家庭も多い。「どちらでもない」と回答した方では、読んであげることは楽しいが「時間が作れない」「忙しい」など、
読んであげることが義務的と感じ、親の負担と感じている方が多い。

●どのような目的で読み聞かせをしていますか？（複数回答）

	本好きになってほしい	お子さんの楽しみ	読み手の楽しみ	親子のふれあい	読書力をつける	学力の向上	その他	無回答	合計	
第一小	45	37	2	37	11	12	3	2	149	
第三小	45	35	4	47	18	6	0	1	156	
第五小	43	39	5	44	24	5	3	2	165	
第六小	56	40	10	49	16	10	10	2	193	
和泉小	39	32	11	43	14	3	2	1	145	
緑野小	42	33	4	43	19	6	3	0	150	有効回答数
合計	270	216	36	263	102	42	21	8	958	950
	28.4%	22.8%	3.8%	27.7%	10.7%	4.4%	2.2%	—		

⇒　目的として、「本を好きになってほしい」「お子さんの楽しみ」「親子のふれあい」をあげる家庭が78.9%となっている。その他として、「寝る前の習慣」「寝かしつけるため」をあげる家庭もあった。

●絵本や子どもの本は、どのように選んでいますか？（複数回答）

	図書館を利用	書店を利用	新聞・雑誌	推薦リスト・パンフレット	インターネット	子ども自身	その他	無回答	合計	
第一小	39	31	3	10	2	32	9	2	128	
第三小	36	35	10	10	3	35	7	1	137	
第五小	40	29	5	23	6	30	6	2	141	
第六小	39	35	4	15	7	32	18	1	151	
和泉小	38	33	5	19	4	27	4	0	130	
緑野小	36	26	4	10	1	33	6	1	117	有効回答数
合計	228	189	31	87	23	189	50	7	804	797
	28.6%	23.7%	3.9%	10.9%	2.9%	23.7%	6.3%	—		

⇒　本を選ぶ方法は、「図書館を利用」「書店を利用」「子ども自身」が主なものであり、76.0%となっている。その他として「定期購読」「自分が子供の頃読んだ本」があげられている。

2）現在の様子

●読み聞かせをどのくらいの頻度でしていますか？

	ほぼ毎日	週2～4回程度	週1回程度	ほとんどしない	したことがない	無回答	合計	
第一小	9	16	14	14	0	2	55	
第三小	8	18	17	16	0	0	59	
第五小	14	14	15	14	0	2	59	
第六小	15	12	16	19	0	0	62	
和泉小	11	16	15	13	0	0	55	
緑野小	8	20	16	10	1	0	55	有効回答数
合計	65	96	93	86	1	4	345	341
	19.1%	28.1%	27.3%	25.2%	0.3%	—		

⇒　「ほとんどしない」「したことがない」が25.5%あり、読み聞かせの頻度が少なくなっている。理由としては、「時間がとれない」「自分で読めるようになった」があげられる。

●1回の読みきかせの時間は、どのくらいですか？

	15分以内	15～30分程度	30分～1時間程度	1時間以上	無回答	合計	
第一小	33	14	1	0	7	55	
第三小	38	14	1	0	6	59	
第五小	37	15	0	0	7	59	
第六小	42	12	3	0	5	62	
和泉小	36	17	1	0	1	55	
緑野小	35	16	0	0	4	55	有効回答数
合計	221	88	6	0	30	345	315
	70.2%	27.9%	1.9%	0.0%	—		

⇒　読み聞かせにかける時間は、「15分以内」が、70.2%、「15～30分程度」が27.9%で、98.1%の家庭では、30分以内の時間で読み聞かせを行っている。

●お子さんは、本が好きですか？

	はい	いいえ	どちらともいえない	無回答	合計	
第一小	43	1	8	3	55	
第三小	40	1	16	2	59	
第五小	52	1	4	2	59	
第六小	44	1	16	1	62	
和泉小	43	0	11	1	55	
緑野小	47	0	7	1	55	有効回答数
合計	269	4	62	10	345	335
	80.3%	1.2%	18.5%	—		

⇒ 80.3%の親が子どもは本好きと答えている。

●読む子を育てるには、何が必要とお考えですか？（複数回答）

	家庭での読書習慣	身近な大人	保育園・幼稚園	小学校・中学校	学校図書館	市立図書館	その他	無回答	合計	
第一小	42	30	31	34	21	24	2	2	186	
第三小	51	31	27	25	27	19	3	2	185	
第五小	53	26	21	23	30	22	2	2	179	
第六小	51	40	25	29	29	26	8	2	210	
和泉小	50	27	16	21	13	14	10	1	152	
緑野小	45	25	24	29	29	18	6	1	177	有効回答数
合計	292	179	144	161	149	123	31	10	1089	1079
	27.1%	16.6%	13.3%	14.9%	13.8%	11.4%	2.9%	—		

⇒ 「家庭での読書習慣」「身近な大人の働きかけ」「小学校・中学校での働きかけ」の順に必要と答えている。「市立図書館の充実」の順位は高くない。

3）ブックスタート事業について

●狛江市のブックスタートを受けましたか？

	はい	いいえ	無回答	合計	
第一小	38	15	2	55	
第三小	36	22	1	59	
第五小	36	21	2	59	
第六小	39	22	1	62	
和泉小	33	22	0	55	
緑野小	31	24	0	55	有効回答数
合計	213	126	6	345	339
	62.8%	37.2%	—		

⇒ 受けていない家庭の多くは「市内に住んでいなかった」であるが、「記憶にない」「覚えていない」という回答もあった。

●読みきかせを行う機会が増えた、またはそのきっかけとなりましたか？
（ブックスタートを受けた人のみ）

	はい	いいえ	どちらともいえない	無回答	合計	
第一小	28	3	6	1	38	
第三小	26	5	5	0	36	
第五小	26	2	7	1	36	
第六小	30	2	7	0	39	
和泉小	23	2	8	0	33	
緑野小	25	2	4	0	31	有効回答数
合計	158	16	37	2	213	211
	74.9%	7.6%	17.5%	—		

⇒ 74.9%の家庭は、「機会が増えた、きかっけとなった」と回答しているが、「機会が増えていない」「どちらともいえない」では「すでに読み聞かせをしていた」との回答が多い。

●説明員のメッセージへの共感できましたか？
（ブックスタートを受けた人のみ）

	できた	できなかった	どちらともいえない	無回答	合計	
第一小	30	1	5	2	38	
第三小	31	2	3	0	36	
第五小	31	0	5	0	36	
第六小	34	1	4	0	39	
和泉小	26	1	6	0	33	
緑野小	27	1	3	0	31	有効回答数
合計	179	6	26	2	213	211
	84.9%	2.8%	12.3%	—		

⇒ 84.9%は「共感できた」と回答しているが、「共感できなかった」「どちらともいえない」では「健診直後で余裕がない」「覚えていない」などの回答があった。

●図書館を利用する機会が増えた、またはそのきっかけとなりましたか？
（ブックスタートを受けた人のみ）

	はい	いいえ	どちらともいえない	無回答	合計	
第一小	22	6	9	1	38	
第三小	17	12	6	1	36	
第五小	18	6	11	1	36	
第六小	16	10	12	1	39	
和泉小	16	5	10	2	33	
緑野小	19	7	4	1	31	有効回答数
合計	108	46	52	7	213	206
	52.4%	22.3%	25.3%	—		

⇒ 52.4%の家庭が「機会が増えた、きかっけとなった」と回答しているが、一方で半数近くが、「機会が増えていない、」「どちらともいえない」と回答している。その理由としては、「以前から図書館を利用していた」「子どもを連れて、図書館に行くのが大変」などがあげられる。

●0歳から登録して図書貸出券をつくれることを知っていますか？

	知っている	知らなかった	無回答	合計	
第一小	28	20	7	55	
第三小	29	28	2	59	
第五小	39	15	5	59	
第六小	34	23	5	62	
和泉小	28	25	2	55	
緑野小	25	28	2	55	有効回答数
合計	183	139	23	345	322
	56.8%	43.2%	—		

⇒ 56.8%が、0歳から貸出券を作ることができるのを知っていたが、約半数が「知らなかった」と回答している。知っていて登録をしない理由として「子どもが小さいうちは、家族の貸出券で借りている」が最も多かった。

4）中央図書館や市内図書室の利用について

●お子さんは（またはお子さんと一緒に）図書館・図書施設を利用しますか？

	月2回以上	月1回くらい	年に数回	利用していない	無回答	合計	
第一小	14	20	11	5	5	55	
第三小	13	15	15	13	3	59	
第五小	19	16	8	9	7	59	
第六小	12	19	15	11	5	62	
和泉小	10	19	18	6	2	55	
緑野小	11	19	9	16	0	55	有効回答数
合計	79	108	76	60	22	345	323
	24.5%	33.4%	23.5%	18.6%	—		

⇒ 57.9%の家庭で、月1回以上図書館・図書室を利用をしている。

●おはなし会などの子ども行事に、参加したことがありますか？

	はい	いいえ	無回答	合計	
第一小	23	23	9	55	
第三小	14	26	19	59	
第五小	17	27	15	59	
第六小	24	25	13	62	
和泉小	20	27	8	55	
緑野小	17	26	12	55	有効回答数
合計	115	154	76	345	269
	42.8%	57.2%	—		

⇒ 42.8%の家庭で図書館の子ども行事に「参加したことがある」と回答している。

記入者が選ぶお気に入りの絵本1冊

○上位5位まで　　単位：人

1	バムとケロシリーズ	16
2	ぐりとぐらシリーズ	14
3	はらぺこあおむし	8
4	ちょっとだけ	4
	こんとあき	4
	かいけつゾロリ	4
	おまえうまそうだな	4
	そらまめくんシリーズ	4
	100万回生きたねこ	4
5	よるくま	3
	はじめてのおつかい	3
	つみきのいえ	3
	ちいさいおうち	3
	きょうはなんのひ	3
	おばけのてんぷら	3
	おしいれのぼうけん	3
	すてきな三にんぐみ	3

○以下　164タイトル　179 人

○無効（マンガ、書名不明、特になしなど）　9 人

○無回答　71 人

子どもが選ぶお気に入りの絵本1冊

○上位5位まで　　単位：人

1	バムとケロシリーズ	17
2	かいけつゾロリ	12
3	ミッケ	9
4	ぐりとぐらシリーズ	5
5	おまえうまそうだな	4

○以下　180タイトル　207 人

○無効（マンガ、書名不明、特になしなど）　17 人

○無回答　74 人

3. 平成24年度調査中乳幼児期と現在（小学1年生）との比較

乳幼児期と現在の比較

●読み聞かせをどのくらいの頻度でしていました（す）か？

	ほぼ毎日	週2～4回程度	週1回程度	ほとんどしない	したことがない	無回答	合計	有効回答数
乳幼児期	135	131	58	16	1	4	345	341
	39.6%	38.4%	17.0%	4.7%	0.3%	—		
現在	65	96	93	86	1	4	345	341
	19.1%	28.1%	27.3%	25.2%	0.3%	—		

⇒　年齢が上がることで、読み聞かせの回数が減っている。主な理由としては、自分で本が読めるようになったことや年齢が上がることで、親や子に時間的余裕がなくなってきているきていることがあげられる。

●1回の読みきかせの時間は、どのくらいですか？

	15分以内	15～30分程度	30分～1時間程度	1時間以上	無回答	合計	有効回答数
乳幼児期	241	90	6	1	7	345	338
	71.3%	26.6%	1.8%	0.3%	—		
現在	221	88	6	0	30	345	315
	70.2%	27.9%	1.9%	0.0%	—		

⇒　1回の読み聞かせにかける時間は、乳幼児期、小学1年生とも「15分以内」が最も多く、30分程度までを含めると90%を超える。

４．平成22年度調査、平成23年度調査と平成24年度調査の比較

平成22年度調査	平成22年12月８日～平成23年１月31日
平成23年度調査	平成23年６月６日～６月30日
平成24年度調査	平成24年６月11日～７月６日

※　平成22年度、平成23年度、平成24年度調査において共通項目の比較
※　平成22年度調査については、比較対象として小学１年生のデータを使用

1）乳幼児期の様子について

●はじめての読み聞かせはいつ頃ですか？

	妊娠中	4ヶ月未満	4ヶ月～8ヶ月未満	8ヶ月～1歳未満	1歳～1歳6ヶ月未満	1歳6ヶ月～2歳未満	2歳～3歳未満	3歳以上	覚えていない	無回答	合計	有効回答数
24年度	38	83	108	32	35	8	8	3	23	7	345	338
	11.2%	24.5%	31.9%	9.5%	10.4%	2.4%	2.4%	0.9%	6.8%	—		
23年度	31	83	77	60	47	7	5	1	21	0	332	332
	9.3%	25.0%	23.2%	18.1%	14.2%	2.1%	1.5%	0.3%	6.3%	—		
22年度	—	42	117	87	20	26	10	2	—	0	304	304
	—	13.8%	38.5%	28.6%	6.6%	8.5%	3.3%	0.7%	—	—		

⇒　各年度とも、70％以上の家庭で1歳までに読み聞かせを始めている。傾向として、読み聞かせを始める時期が早まってきている。

●読み聞かせをどのくらいの頻度でしていましたか？

	ほぼ毎日	週2～4回程度	週1回程度	ほとんどしない	したことがない	無回答	合計	有効回答数
24年度	135	131	58	16	1	4	345	341
	39.6%	38.4%	17.0%	4.7%	0.3%	—		
23年度	130	127	46	25	4	0	332	332
	39.2%	38.2%	13.9%	7.5%	1.2%	—		
22年度	148	150		32	0	0	330	330
	44.8%	45.5%		9.7%	0.0%	—		

⇒　各年度とも、90％以上の家庭で読み聞かせを行っている。年々割合も増加している。

●主に読みきかせをするのは、どなたですか？（複数回答）

	母親	父親	祖父母	その他	合計
24年度	338	173	52	20	583
	58.0%	29.7%	8.9%	3.4%	
23年度	325	154	79	20	578
	56.2%	26.6%	13.7%	3.5%	
22年度	313	76	17	12	418
	74.9%	18.2%	4.0%	2.9%	

⇒ 読み聞かせをする人は、母親が多いが、父親の割合も年々増えてきている。

●1回の読み聞かせの時間は、どのくらいですか？

	15分以内	15～30分程度	30分～1時間程度	1時間以上	無回答	合計	有効回答数
24年度	241	90	6	1	7	345	338
	71.3%	26.6%	1.8%	0.3%	—		
23年度	235	86	4	1	6	332	326
	72.1%	26.4%	1.2%	0.3%	—		
22年度	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—		

⇒ 読み聞かせにかける時間は、各年度とも「15分以内」が、70%以上、「15～30分程度」が約26%で、95%以上の家庭で、30分以内の時間で読み聞かせを行っている。

●お子さんに絵本を読んであげることは、楽しいですか？

	はい	いいえ	どちらともいえない	無回答	合計	有効回答数
24年度	257	8	68	12	345	333
	77.2%	2.4%	20.4%	—		
23年度	231	4	90	7	332	325
	71.1%	1.2%	27.7%	—		
22年度	251	1	69	9	330	321
	78.2%	0.3%	21.5%	—		

⇒ 各年度とも、70%を超える方が絵本を読んであげることは楽しいと回答している。

●どのような目的で読み聞かせをしていますか？（複数回答）

	本好きになってほしい	お子さんの楽しみ	読み手の楽しみ	親子のふれあい	読書力をつける	学力の向上	その他	無回答	合計	有効回答数
24年度	270	216	36	263	102	42	21	8	958	950
	28.4%	22.8%	3.8%	27.7%	10.7%	4.4%	2.2%	—		
23年度	225	215	40	233	81	35	22	6	857	851
	26.4%	25.3%	4.7%	27.4%	9.5%	4.1%	2.6%	—		
22年度	230	212	66	215	125	54	14	6	922	916
	25.1%	23.1%	7.2%	23.5%	13.7%	5.9%	1.5%	—		

⇒ 各年度とも、「本好きになってほしい」「お子さんの楽しみ」「親子のふれあい」が主なものであり、「本好きになってほしい」「親子のふれあい」がのびてきている。

●絵本や子どもの本は、どのように選んでいますか？（複数回答）

	図書館を利用	書店を利用	新聞・雑誌	推薦リスト・パンフレット	インターネット	子ども自身	その他	無回答	合計	有効回答数
24年度	228	189	31	87	23	189	50	7	804	797
	28.6%	23.7%	3.9%	10.9%	2.9%	23.7%	6.3%	—		
23年度	225	186	19	72	14	173	42	3	734	731
	30.8%	25.4%	2.6%	9.9%	1.9%	23.7%	5.7%	—		
22年度	253	187	59	120	—	—	44	3	666	663
	38.2%	28.2%	8.9%	18.1%	—	—	6.6%	—		

⇒ 各年度とも、「図書館を利用」「書店を利用」「子ども自身に選ばせる」が主なもの。

2）現在の様子

●読み聞かせをどのくらいの頻度でしていますか？

	ほぼ毎日	週2～4回程度	週1回程度	ほとんどしない	したことがない	無回答	合計	有効回答数
24年度	65	96	93	86	1	4	345	341
	19.1%	28.1%	27.3%	25.2%	0.3%	—		
23年度	55	79	95	95	7	1	332	331
	16.6%	23.9%	28.7%	28.7%	2.1%	—		
22年度	148	150		32	0	—	330	330
	44.8%	45.5%		9.7%	0.0%	—		

⇒ 各年度とも、70%以上の家庭が読み聞かせを行っている。

●1回の読み聞かせの時間は、どのくらいですか？

	15分以内	15～30分程度	30分～1時間程度	1時間以上	無回答	合計	有効回答数
24年度	221	88	6	0	30	345	315
	70.2%	27.9%	1.9%	0.0%	—		
23年度	196	87	4	7	38	332	294
	66.7%	29.6%	1.3%	2.4%	—		
22年度	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—		

⇒ 各年度とも、読み聞かせの時間は「15分以内」が約70%で、95%の家庭で30分以内で読み聞かせを行っている。

●お子さんは、本が好きですか？

	はい	いいえ	どちらともいえない	無回答	合計	有効回答数
24年度	269	4	62	10	345	335
	80.3%	1.2%	18.5%	—		
23年度	269	6	47	10	332	322
	83.5%	1.9%	14.6%	—		
22年度	258	6	63	3	330	327
	78.9%	1.8%	19.3%	—		

⇒ 各年度とも、約80%の人が自分の子は本が好きと答えている。

●読む子を育てるには、何が必要とお考えですか？（複数回答）

	家庭での読書習慣	身近な大人	保育園・幼稚園	小学校・中学校	学校図書館	市立図書館	その他	無回答	合計	有効回答数
24年度	292	179	144	161	149	123	31	10	1089	1079
	27.1%	16.6%	13.3%	14.9%	13.8%	11.4%	2.9%	—		
23年度	273	186	136	174	149	128	17	16	1079	1063
	25.7%	17.5%	12.8%	16.4%	14.0%	12.0%	1.6%	—		
22年度	281	186	111	167	124	114	22	0	1005	1005
	28.0%	18.5%	11.0%	16.6%	12.4%	11.3%	2.2%	—		

⇒ 各年度とも、「家庭での読書習慣」「身近な大人の働きかけ」「小学校・中学校での働きかけ」の順に必要と答えている。

3）ブックスタート事業について

●狛江市のブックスタートを受けましたか？

	はい	いいえ	無回答	合計	有効回答数
24年度	213	126	6	345	339
	62.8%	37.2%	—		
23年度	179	143	10	332	322
	55.6%	44.4%	—		
22年度	184	139	6	329	323
	56.9%	43.1%	—		

⇒ ブックスタートを受けた家庭の割合が増加してきている。

●読みきかせを行う機会が増えた、またはそのきっかけとなりましたか？
（ブックスタートを受けた人のみ）

	はい	いいえ	どちらともいえない	無回答	合計	有効回答数
24年度	158	16	37	2	213	211
	74.9%	7.6%	17.5%	—		
23年度	126	14	38	1	179	178
	70.8%	7.9%	21.3%	—		
22年度	104	7	62	11	184	173
	60.1%	4.1%	35.8%	—		

⇒ 読み聞かせの機会が増えた、きっかけとなった方の割合が増えてきている。

●説明員のメッセージへの共感できましたか？（ブックスタートを受けた人のみ）

	できた	できなかった	どちらともいえない	無回答	合計	有効回答数
24年度	179	6	26	2	213	211
	84.9%	2.8%	12.3%	—		
23年度	151	0	27	1	179	178
	84.8%	0.0%	15.2%	—		
22年度	142	1	31	10	184	174
	81.6%	0.6%	17.8%	—		

⇒ 各年度とも80%以上の方が、「共感できた」と回答している。

●図書館を利用する機会が増えた、またはそのきっかけとなりましたか？
（ブックスタートを受けた人のみ）

	はい	いいえ	どちらともいえない	無回答	合計	有効回答数
24年度	108	46	52	7	213	206
	52.4%	22.3%	25.3%	—		
23年度	105	38	34	2	179	177
	59.3%	21.5%	19.2%	—		
22年度	83	21	69	11	184	173
	48.0%	12.1%	39.9%	—		

⇒ 「利用する機会が増えた、きかっけとなった」と回答している方は、横ばいの状態である。

●0歳から登録して図書貸出券をつくれることを知っていますか？

	知っている	知らなかった	無回答	合計	有効回答数
24年度	183	139	23	345	322
	56.8%	43.2%	—		
23年度	188	131	13	332	319
	58.9%	41.1%	—		
22年度	202	124	4	330	326
	62.0%	38.0%	—		

⇒　各年度とも50％を超える方が、0歳から貸し出し券をつくることができるのを知っている。

4）中央図書館や市内図書室の利用について

●お子さんは（またはお子さんと一緒に）図書館・図書施設を利用しますか？

	月2回以上	月1回くらい	年に数回	利用していない	無回答	合計	有効回答数
24年度	79	108	76	60	22	345	323
	24.5%	33.4%	23.5%	18.6%	—		
23年度	86	105	77	56	8	332	324
	26.5%	32.4%	23.8%	17.3%	—		
22年度	102	96	79	49	4	330	326
	31.3%	29.5%	24.2%	15.0%	—		

⇒　各年度とも60％近くの方が月１回以上利用しているが、その割合は微減している。

●おはなし会などの子ども行事に、参加したことがありますか？

	はい	いいえ	無回答	合計	有効回答数
24年度	115	154	76	345	269
	42.8%	57.2%	—		
23年度	136	148	48	332	284
	47.9%	52.1%	—		
22年度	113	161	7	281	274
	41.2%	58.8%	—		

⇒　参加したことがある方は、40％台で推移しているが、半数以上の方が参加したことがないとの回答だった。

家庭における乳幼児期の読書環境に関するアンケートのお願い

狛江市立図書館では、１年生を対象とした入学までの読書環境の実態調査のためのアンケートを下記のとおり実施します。この結果をもとに、今後も図書館における児童サービスの向上に努めると共に、狛江市の子どもの読書活動推進に関する取り組みに反映させていく予定です。どうぞ回答にご協力くださいますようお願いします。

実施期間：平成 24 年 6 月 11 日（月）から平成 24 年 7 月 6 日（金）まで
記入方法：質問は項目選択と一部記述になっています。該当する項目の番号に○でかこみ、必要に応じて具体的な内容をご記入ください。

問い合わせ：中央図書館 子ども読書推進担当　TEL03-3488-4414

記入日　平成　　年　　月　　日

A）幼児期の様子についてお答えください

a. お子さんにはじめて読み聞かせをしたのは、いつ頃ですか？

1. 妊娠中　　2. ０歳４カ月未満
3. ０歳４ヶ月～8 カ月未満　　4. ０歳８カ月～１歳未満
5. １歳～1 歳 6 カ月未満　　6. 1 歳 6 カ月～2 歳未満
7. ２歳～３歳未満　　8. ３歳以上
9. 覚えていない

b. 絵本などの読み聞かせをどのくらいの頻度でしていましたか？

1. ほぼ毎日　　2. 週２～４回程度　　3. 週１回程度
4. ほとんどしない　　5. したことがない **→B）へ進んでください**

（ほとんどしない・したことがない理由　　）

c. 読み聞かせをするのは、どなたですか？
※おもにする方を◎で囲み、それ以外の方は○をつけてください

1. 母親　　2. 父親　　3. 祖父母　　4. その他（具体的に：＿＿＿＿＿＿＿＿）

d．１回の読み聞かせの時間は、どのくらいですか？　※平均の時間をお答えください

1. 15 分以内　2. 15～30 分程度　3. 30 分～１時間程度　4. １時間以上

e. お子さんに絵本を読んであげることは、楽しいですか？

1. はい　2. いいえ　3. どちらともいえない

（いずれも理由　　）

f. どのような目的で読み聞かせをしていますか？　※複数回答可

1. 本好きになってほしい　2. お子さんの楽しみ
3. 読み手の楽しみ　4. 親子のふれあい
5. 読書力をつける　6. 学力の向上
7. その他（具体的に：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

g. 絵本や子どもの本は、どのようにして選んでいますか？　※複数回答可

1. 図書館を利用する　2. 書店を利用する
3. 新聞や雑誌の広告などを見る　4. 推薦リストやパンフレットなどを見る
5. インターネットで情報サイトを見る　6. 子ども自身に選ばせる
7. その他（具体的に：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

B）現在のお子さんの様子についてお答えください

a. 絵本などの読み聞かせをどのくらいの頻度でしていますか？

1 ほぼ毎日　2. 週２～４回程度　3. 週１回程度
4. ほとんどしない　5. したことがない →**C）へ進んでください**

（ほとんどしない・したことがない理由　　）

b. １回の読み聞かせの時間は、どのくらいですか？　※平均の時間をお答えください

1. 15 分以内　2. 15～30 分程度　3. 30 分～１時間程度　4. １時間以上

c. お子さんは、本が好きですか？

1. はい　2. いいえ　3. どちらともいえない

d. いちばんお気に入りの絵本は、なんですか？

記入者が選ぶ１冊

『　　』

お子さんが選ぶ１冊

『　　』

e. 本を読む子を育てるには、何が必要とお考えですか？　※複数回答可

1. 家庭での読書習慣
2. 身近なおとなの働きかけ
3. 保育園・幼稚園での働きかけ
4. 小学校・中学校での働きかけ
5. 学校図書館の充実
6. 市立図書館の充実
7. その他（具体的に：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿）

C）ブックスタート事業について

a. 狛江市の３・４ヶ月児健康診査時に実施しているブックスタートは、受けましたか？

1. はい　　2. いいえ

「はい」とお答えの方にお聞きします

b．説明員のメッセージに、共感できましたか？

1. できた　　2. できなかった　　3. どちらともいえない

（できなかった・どちらともいえない理由　　）

c．読み聞かせを行う機会が増えた、またはそのきっかけとなりましたか？

1. はい　　2. いいえ　　3. どちらともいえない

（いいえ・どちらともいえない理由　　）

d．図書館を利用する機会が増えた、またはそのきっかけとなりましたか？

1. はい　　2. いいえ　　3. どちらともいえない

（いいえ・どちらともいえない理由　　）

→「いいえ」とお答えの方にお聞きします

◎受けなかった理由は、なんですか？

（例）市内に住んでいなかった

e. 狛江市立図書館では、0歳から登録して図書貸出券を作れることを知っていますか？

1. 知っている　　2. 知らなかった

（　　歳の時に登録済み　・　登録していない）

（登録していない理由）

D)中央図書館や市内図書室の利用について

a. お子さんは（またはお子さんと一緒に）図書館・図書施設をよく利用しますか？

1. 月2回以上　　2. 月1回くらい　　3. 年に数回

5. 利用していない　**→E)へ進んでください**

b. おはなし会などの子ども行事に、参加したことはありますか？

1. はい（具体的な内容：　　）　2. いいえ

E)「子どもの読書」や「図書館」についてのご希望やご意見

ご回答ありがとうございました

【資料3】

「狛江　本の森　学校図書館　活用ノート」（抜粋）

狛江市では平成 24 年度より「狛江　本の森　学校図書館　活用ノート」を狛江市立小学校の児童に副読本として配付しています。

これらは1・2年、3・4年、5・6年用の3分冊からなり、児童の読書活動と学校図書館の情報活用を推進する目的で作成されたものです。学校図書館に学校司書が配置され、資料が豊富であってもそれらを活用できるスキルが身に付いていなければ教科学習に役立てることはできません。狛江市では平成 18 年に教師のための『学校図書館活用資料集―指導の手引き―』と児童用のブックリスト『本の森』を作成し配付してきましたが、今回は『本の森』を低中高学年に分け一部差し替えて、「狛江　本の森　学校図書館　活用ノート」の中に組み入れました。「図書の時間」を中心にこの副読本を活用し、狛江市の子どもたちの児童の読書活動と学校図書館の情報活用が一層活発になるよう取り組んでいるところです。

資料は1・2年、3・4年、5・6年用の各冊より読書活動に関連したページを抜粋したものです。

17	絵本をしょうかいしよう	絵本の紹介・１年・２年 がくしゅうしたひ がつ　　にち

いままでに　読んだ本の中で　おもしろかった本や楽しかった本をしょうかいしましょう。
①どんなところがおもしろかったかな？　　②どんなばめんなのかな？
気にいったところを　かこう。

本をしょうかいしよう　　____ねん____くみ　なまえ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

本の名前

かいた人

絵をかきましょう。

低学年－17

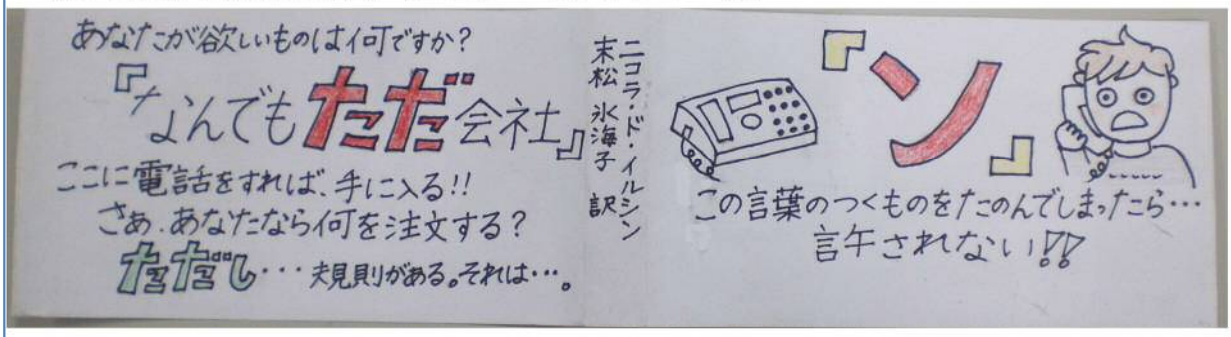
15 本の帯を作ろう (3・4年)

◎「本の帯」ってなぁに？
「本の帯」とは、その本についての紹介文・キャッチコピーなどが書かれた紙のことです。

ユニークな言葉で、その本を読みたいと思わせたり、色やデザインを工夫したりするなど、さまざまな手法で、ステキなオリジナルの帯を作って、自分のお気に入りの本を他の人にも紹介しましょう。

折り込み部分	表 本の題名・絵など 学年・クラス・名前	作者名	裏 短い言葉や文章で書く	折り込み部分

例）「なんでもただ会社」（ニコラ・イルシング　作）



表

裏

本の表紙は、出版社より、許諾を受けて掲載しています。

中学年－17

16　長編を読もう　チャレンジ読書

【１】あなたが今までに読んだ本で一番長い物語の書名を書いてみましょう。

書　　名	作　者　名	ページ数

【長編ってそんなにおもしろい？】

私たちは、たった１冊の本で、まだ行ったこともない遠い国や過去や未来の世界にも行くことができます。ひとには話せない心のもやもやをかかえているとき、１冊の本に出会えて、「あっ、ぼくと同じだ」「わたしが言いたかったのはこのことだ」と思うことがあります。長い物語は、作者が私たちに伝えたいことを、長い時間をかけて工夫して書き上げたメッセージがたくさんつまっています。「おもしろい」「楽しい」だけでなく、ものの見方や考え方が、今までより広がったり、深くなったりします。

【２】さあ、あなたも今までより長い物語にチャレンジしてみましょう。

書　　名	作　者　名	ページ数

【どうやって本を選ぶの】

この冊子のすいせんリストや図書館発行のしょうかい文などを参考に選んでみましょう。学校司書の先生に相談すると、あなたにぴったりの本を紹介してくれるかも知れませんね。

【チャレンジ読書のやりかた】

☆まず、３０ページまではがんばって読みましょう。なぜなら、たいていの本はそのあたりから物語がおもしろくなるからです。そこまでは少しがまんが必要かもしれません。

☆３０ページまで読んで、自分には合わないなあと感じたら他の本に変えましょう。

☆これはいけるぞと思ったら、あなたの本選びは成功かも知れません。あとはどんどん読んでいきましょう。

☆最後まで読み終わったら、次は同じ作者の本や、同じシリーズの本を読んでみましょう。

【３】チャレンジ読書２冊目に読み終わった本を記録しましょう。

書　　名	作　者　名	ページ数

【資料4】

第二次狛江市子ども読書活動推進計画策定までの取り組み

狛江市子ども読書活動推進計画庁内策定委員会名簿

	職　名	氏　名
委員長	図書館長	小川　守清
副委員長	図書館副主幹	加藤　清己
委員	図書館主任	葛西　美香
	指導室統括指導主事	伊藤　聡
	指導室指導主事	篠塚　幸次
	司書教諭	田揚　江里

計画策定の経過

	開　催　日	内　容
第1回	平成 24 年7月 13 日	本計画の位置づけ及び趣旨について 策定スケジュールについて 狛江市子ども読書活動推進計画に対する検証及び検討方法と今後の進め方について
第2回	平成 24 年9月 26 日	推進計画の作成について （統合方法及び表記方法等の決定）
第3回	平成 24 年 10 月 11 日	推進計画の年齢区分について 素案内容確認及び内容の統合方法について
第4回	平成 24 年 10 月 18 日	子ども読書活動推進計画素案の決定 パブリックコメント実施要綱の決定 パブリックコメント及び市民説明会開催日の決定
第5回	平成 24 年 11 月 14 日	第二次狛江市子ども読書活動推進計画素案の決定
第6回	平成 25 年2月 21 日	パブリックコメント回答の決定 第二次狛江市子ども読書活動推進計画の決定

【資料5】

第二次狛江市子ども読書活動推進計画(素案)に対する市民からのご意見と市の考え方

1 パブリックコメント実施概要

（1） 実施期間

平成 25 年1月 15 日（火）から2月 14 日（木）まで

（2） 周知方法

広報こまえ（平成 25 年1月 15 日号）

狛江市及び狛江市立図書館ホームページ

（3） 閲覧場所

狛江市立中央図書館事務室及び教育部指導室窓口

（4） 意見提出先

狛江市立中央図書館及び教育部指導室

2 市民説明会実施概要

（1） 実施日

平成 25 年1月 27 日（日） 14:00 から

平成 25 年1月 30 日（水） 19:00 から

（2） 実施場所

狛江市役所 4階 特別会議室

3 パブリックコメント実施結果

	パブリックコメント	市民説明会
意見提出者数	5名	3名
意見提出件数	18 件	25 件

4 内容

「【資料5別表1】パブリックコメントによる市民からのご意見と市の考え方」

「【資料5別表2】市民説明会による市民からのご意見と市の考え方」

	該当ページ	意見	市の考え方
1	P09	市民のニーズをとらえ、多様なサービスを目指すために、図書館、図書室、学校図書館等で働く人の研修の機会を設けてほしい。	P9、P11、P23に«取り組みをサポートする人へのはたらきかけ»として現在行っている研修等の記載をいたしましたが、状況に応じ今後も研修の機会を検討します。
2	—	この推進計画を、今後5年間どこが責任をもって進捗状況をチェックし、進めていくのか。	今回の計画においては、図書館、指導室が中心となり、進捗状況を確認し進めてまいります。
3	—	「子どもの読書活動の意義」及び「子ども読書活動の現状と狛江市の動向」の内容は、子どもの読書の重要性や狛江市の取り組みを市民に伝える上で大変重要です。計画が最終化された後には、図や表を用いたわかりやすいパンフレットにまとめる等、その普及に努めることを望みます。	計画の周知については必要と認識しています。計画については、図書館ホームページや図書館資料として周知します。パンフレットについては今後の課題として考えてまいります。
4	—	行政の横の連携や、市民や関係者との協議の場を設けることと年一回の報告会開催を望みます。	計画の見直しや、次期計画の策定の際に考えてまいります。
5	—	狛江市の子どもの読書に関わるあらゆる方面の団体が推進計画策定から関わるべきではないか。	今後の計画の見直しや策定において考えてまいります。
6	—	本計画策定にあたりもっと幅広くメンバーを募るべき（幼稚園・保育園、児童館、関係課、ボランティアグループ等）であったと思います。 実施にあたっては、関連施設、市役所担当課、市民グループ等への説明、意見交換等により協力・連携のもと円滑なサービス実施を望みます。 その際乳幼児、小学生、中・高校生等対象別の利用者、関係者向けにカラー版で簡単で分かりやすいサービス案内を準備する等きめ細かい対応を望みます。	関係施設、関係団体との協力のもと進めていきたいと考えています。サービス案内については、今後予算等を鑑み検討してまいります。
7	—	学校でこの計画を推進していくためには、学校司書の勤務時間の見直しが必要なはず。一次の計画ではその文言があったが、二次案では見当たらないが、どうしていくのか。	第一次推進計画では、学校司書の勤務時間について1日4時間週4日配置と記載されていますが、現行では1日5時間週4日配置となっております。 また、勤務時間の増加については現在の市の財政状況から鑑みて非常に難しい状況です。今後財政状況を見ながら学校司書の時数増については検討の機会を考えてまいります。
8	—	狛江市は都内でいち早く市内小・中学校全校に学校司書を配置して、学校図書館を支援してきました。学校図書館への資料、資料相談（レファレンス）等の支援とともに、研修や待遇改善等学校図書館の中核をなす学校司書を引き続き支援されるよう望みます。	財政面等を鑑み可能な範囲で今後も継続的に支援してまいります。

	該当ページ	意見	市の考え方
9	—	ほとんどの子どもたちが日常的に多くの時間を過ごす学校の中にある学校図書館は、子どもたちの読書環境として大きな役割を担っています。狛江市では市独自の予算で早くから専任・専門の司書が配置され、学校図書館が読書センター・学習・情報センターとして機能していることは意義深いことです。このたびの計画案のＰ4に「課題として、本計画に基づいた各校における・・・」とありますが、その実現のために以下のことが大切だと考えます。 ①学校司書や司書教諭の専門性を高めるための研修や実践の共有、情報交換のための連絡会の定期開催。 ②学校図書館活用教育を計画性を持って系統的に推進するための体制づくり。 ③学校司書の勤務体制の充実。学校図書館が教育の中に豊かに活用されればされるほど、学校司書の仕事は質、量とも増えています。現在はサービス残業でこなしていることも多いと聞いています。仕事量に見合った勤務時間と報酬が検討されることを望みます。 ④司書教諭の授業時間の軽減。 ⑤「学校図書館支援センター」の設置。 ⑥中央図書館と学校図書館の連携と協力体制の充実	①連絡会に関しては継続しています。学校司書と司書教諭が合同で年４回行っています。 ②平成25年度より、小中学校全校が学校図書館全体計画及び年間指導計画を作成し指導してまいります。 ③勤務時間の増加等については現在の市の財政状況から鑑みて非常に難しい状況です。今後財政状況を見ながら学校司書の時数増については検討の機会を考えてまいります。 ④司書教諭の授業時数を軽減するためには軽減された時数を補充する教員が必要となります。教員の人事権をもつ東京都では、司書教諭の軽減としての12学級以上の中学校に対し状況に応じて人的措置は行っております。狛江市における12学級以上の中学校では、司書教諭の校内での持ち時数の状況により校長の判断で軽減を行っている学校があります。ただし司書教諭のもともとの持ち時数が少ない場合には、軽減のための人的措置は取られません。また小学校や12学級未満の中学校では、人的措置がないため、現時点で授業時数を軽減することは困難な状況です。 ⑤学校図書館支援センターの事業ついては、学校図書館の効果的な活用・運営のために、学校図書館支援センターの支援の在り方を調査研究することを目的として、平成18年度から平成20年度までの３か年事業として文部科学省から委託されました。３か年で資料の収集や地域人材の活用方法等研究しましたが、文部科学省の委託期間終了後、予算的な措置ができず、支援センターの実質的な運営ができなくなっています。ただし、モデル期間に研究した内容については、各学校図書館でそのノウハウ等を生かしているところです。そのため、本事業について推進計画の中に追加することは難しい状況です。 ⑥学校図書館連絡協議会等を通じ協力体制を充実してまいります。
10	—	中央図書館は児童サービスに熱心に取り組んできていると思います。子どもへのサービスについては特に専門性、継続性が求められる分野であり、専任職員が一定期間継続して担当することが望ましいと考えます。	子どもへのサービス低下にならないよう今後とも推進してまいります。
11	—	中央図書館は自らヤングアダルトサービスの一層の充実を図るとともに、中学校・高校の学校図書館への一層の支援が望まれます。また授業も含め図書室利用の促進については先生方の協力が不可欠です。学校で十分な協力体制がとられるよう、担当課による強いリーダーシップ、継続的な働きかけを望みます。	中央図書館では限られたスペースや資料費の中で今後とも努力していきたいと考えています。学校図書館の利活用については、司書教諭及び学校司書が学校図書館連絡協議会等の場での協議や情報交換を通じて指導室とともに推進に努めてまいります。
12	—	子ども読書活動の推進を市として進めていくには、市立図書館が中心的働きを担うことは必須。市立図書館は、委託ではなく、市が直接責任を持ってずっと運営していってほしい。	現時点では市が直接運営していく方向です。

	該当ページ	意見	市の考え方
13	—	市内の小中学校に子どもが在学しています。全校に司書を配置し学校をあげて読書活動に力をいれて下さっている結果、小学校在籍中は読書を積極的にしている様子です。 ところが中学校にあがった途端、本からすっかり離れていることに親としては頭が痛いところです。色々なアプローチをして活字に触れさせたいと思いますが、中学生が親の話しを素直に受けいれるのは難しいです。だから中学こそぜひ学校の取り組みで本にふれる機会を与えてほしいです。 図書室が子どもたちの動線から離れていてどこにあるかもわからないのはもったいないと思います。昇降口の目の前にオープンスペースであったら・・・図書室を中心にPCルーム各目的の部屋が配置されたら・・・など夢は広がるものの、まず現実的な試みとして朝読書やブックトーク、授業での資料さがしに図書室を活用する、といった積極的な働きかけを学校あげて取り組んでいただけたら親としてありがたいです。 中学では本を読む子とまったく読まない子に二分されると聞きます。残念ながら【まったく読まない子】をわが子に持つ親として、先生方の日々のお忙しさを考えると提案もひっこめそうになりますが、携帯電話を与え本から遠ざけてしまった親の責任としてもお役にたてることであれば協力させていただき中学からの本離れにブレーキかけたいと切にねがっています。	通年で朝読書などの読書活動を行っている中学校もあります。移動教室や修学旅行などの事前調べや、職場体験等の進路選択の資料として学校図書館を活用しています。教科等での図書活用をどの学校でも実施していますが、教科で指導しなければならない内容量と授業時数の関係から、関連図書の活用が難しい場面もあります。こうした中、図書委員会による書籍の紹介や図書館便りを発行したり、中学生向け図書案内「本の世界へようこそ」を使用したオリエンテーションを実施したりするなど、本に触れる機会を設けています。今後読書活動の充実に努めたいと考えております。
14	—	子どもは大人に比べ行動範囲が狭いため、近くの地域センター図書室を利用するケースが多く、地域センター図書室での児童サービスは中央図書館での児童サービスと同じくらい重要な役割を担っていると考えます。また児童サービスは専門性が求められる分野であり、少なくとも1人は司書有資格者が配置されるよう望みます。さらに児童サービスのうち特に専門性が求められる選書については中央図書館がきめ細かい支援を行うよう望みます。	地域センターの配置については関係部署に伝えてまいります。また児童サービスの専門性を踏まえ、各地域性に考慮した情報を提供できるよう今後とも協力してまいります。
15	—	中央図書館では、各年齢層に合わせた子どもへの働きかけは充実してきています。どこに住んでいても同等のサービスが受けられるよう、子どもの育ちに関する機関との連携協力体制を検討するよう望みます。特に子供たちの生活圏の中にある地域センター図書室への働きかけは大切です。	関係機関との連携については必要と認識しています。地域センター図書室については、今後とも連携体制を維持してまいります。
16	—	二次案に対するパブリックコメントの募集は狛江広報に掲載されていますが、これだけでは不十分です。多くの市民の声を反映させるため、より多くの手段を用いた幅広い意見聴収を望みます。	市や図書館のホームページにも掲載していますが、周知方法等については今後の課題と考えております。
17	—	閲覧室を事務室内限定としたのはなぜか。	他のパブリックコメントの例に習い、公開及び閲覧方法を定めました。今後の計画の改定等に際して検討してまいります。
18	—	素案・パブコメ意見冊子・決定版の即時市立図書館地域行政資料化、即ち資料を登録し市報での公表記事掲載又は市役所での販売と同時に、市民誰もがたやすく蔵書検索でき、貸出等により気軽に利用できるようにすること。そして素案→パブコメ意見→確定版となった経過を市民が辿れるよう行政記録として素案・パブコメ意見も永久保存することを求めます。	計画決定後パブリックコメントの意見等は、この計画内に掲載されます。また計画は基本的に図書館資料として保存します。素案に関しては、狛江市情報公開条例に基づき請求することが可能です。

	該当ページ	意見	市の考え方
1	P 08	ブックスタートについて「すべての子どもたち」とあるが、すべてということがとても大事だと思う。すべての子どもたちにということでブックスタートを早くから取り組んでいただいていて、市民として評価している。	今後ともブックスタート事業を始めとする乳幼児への絵本の読み聞かせや、親子で楽しむおはなし会などさらに充実した内容で取り組んでまいります。
2	P12	地域センター図書室は分館ではないが、地域の人からするととても大切な役割があると思うので、推進計画の中に、現状と今後どのように関わっていくのかを触れていただきたい。	Ｐ12«図書館におけるこれからの取り組み»に「地域センター図書室に関しては、資料の選書及び配架等に関し、今後も相談に応じるなど支援していきます。」と追加修正いたしました。
3	P 24	「10年前当時と比べて格段に図書館利用が上手になっています」とあるが、具体的にどういう事象で上手になったと評価したのか。どのように上手になったのかわからない。	具体的な数字としてではないのですが、10年前は調べることがあるときに図書館のカウンターに子どもたちが漠然とした質問で来ることが多かった。しかし現在では学校での調べ学習の指導により、検索機で欲しい資料を調べてからカウンターに来たり、自分の調べたいことを筋道を立てて説明できるようになっていることが、日々カウンターで感じるところです。
4	P 27	「朝読書など学校体制としての読書時間を設けられるような方向を探っていきます」と記述がある。現在の４中学で教科としての読書指導ではなく、継続的に日常行っている読書指導がどのような実態で各学校行っているのか、お手持ちにあればそれを提供していただきたい。	通年で朝読書などの読書活動を行っている学校、また、読書月間等の時期に実施している学校もあります。こうした読書活動以外にも図書委員会による書籍の紹介や図書館便りを発行したり、中学生向け図書案内「本の世界へようこそ」を使用したオリエンテーションを実施したりするなど、本に触れる機会を設けています。今後読書活動の充実に努めたいと考えております。
5	P 29	団体貸出で、狛江には都立狛江高校があるが、団体貸出は利用しているのか。利用しているのであればどのくらい利用しているのか。	都立高校の司書の方が年20回程度団体貸出を利用しています。
6	P 29	職場訪問のところで、高校のボランティア体験とありますが事例はありますか。	過去に２回ありました。20年度に１回と、24年度に１回の実績があります。希望がある場合に受け入れをしています。
7	P 29	これからの取り組みとして都立狛江高校と積極的に情報交換を、とあるが、現在のところはどの程度関わりがあるのですか。	この計画を立てるに先立ち狛江高校の司書と情報交換をしていきたい旨を話し了承を頂いています。25年度以降は年１～２回程度の交流ができたらと図書館としては考えており、今後調整していく予定です。
8	―	第一次の計画はどれくらいの人に伝わって配布されているのか。第一次と第二次で継続性はあるのか。これから第二次をどのように伝えていくのか。	第一次は平成15年に策定されました。現在ホームページで閲覧できるようになっています。第二次の策定においても第一次と同様に指導室と図書館で策定しました。また、公開については図書館ホームページでの公開及び中央図書館、西河原公民館図書室、地域センター図書室、学校図書館で資料として貸出、閲覧できるようにします。

	該当ページ	意見	市の考え方
9	—	就学前の乳児と幼児に関して、教育施設である幼稚園などの読書指導の取り組みが書かれていない。その視点をこの計画に入れていただきたい。	就学前の乳児と幼児に関しては、地域でおはなし会活動をする人のための大型絵本や紙芝居などの収集とともに、布の絵本や点字絵本の自館製作にも取り組み、保育園や児童関連施設への団体貸出をさらに進めていくよう努めます。また今後の計画の見直しや策定において考えてまいります。
10	—	広報活動について、このような取り組みを市がしているということ、市民の力を活用するためにも広く市民に伝える方法を工夫していただきたい。	計画策定後は、図書館ホームページでの公開及び中央図書館、西河原公民館図書室、地域センター図書室、学校図書館で資料として貸出、閲覧できるようにします。
11	—	読書の習慣は非常に重要であり、中学の思春期の時期が一番形作られてしまうと思うので、立派な計画と同時に計画の効果的な実施をお願いしたいです。	思春期のみならずその前後も含めて、小・中学校での学齢期という大事な時期について、教育課程全体から教育内容を見直し効果的な実施を考えてまいります。
12	—	市民と行政が協力して子どもの健全育成のためにということだと、生涯学習の視点と学校教育の視点が大事だと思うので双方の連携を取って取り組むものと考える。図書館だけではない社会教育の関係の方、児童青少年課の方も含めてオール狛江市で調整していただけたらと思う。	今後の計画の見直しや策定において考えてまいります。
13	—	子どもの指導をする学校関係者の意見を聞く機会はあったのか。	学校関係者の意見を反映させるために、策定委員に現場の代表として、学校図書館に精通している司書教諭を選定しています。また今後校長会等で広く周知してまいります。
14	—	素案を作るにあたって、図書館と関わる福祉関係や青少年関係との話し合いはあったのか。	今後事業を展開していく上で、また今後の計画の策定において考えてまいります。
15	—	学校の司書の方の勤務実態は。学校の休業日以外の学校が活動している時には原則教職員と同じようにいるのか。あるいは曜日など週に何回と決まっているのか。	学校司書の勤務時間は週４日、20時間勤務しております。
16	—	狛江の学校の司書の方々のサービス残業的なものも多いと思うのですが実態はどうなのでしょうか。調査などされているものはありますか。	調査を行ったことはありません。
17	—	中学校は読書指導以外に、学習の活用にどのように利用されているのか。授業にどのように対応しているのか。図書館を使った授業と、授業に資料を提供したなどデータをお示しいただきたい。	数年前の都内の調査結果で回答いたします。教科によって活用の差があります。国語は多いが、他の教科では少ないという結果でした。この現状は中学校の教科担任制の指導であることが大きな原因と考えられます。したがって教科での学習に図書館を活用するためには、それぞれの教科の担任にどう働きかけるかが非常に重要と考えます。移動教室や修学旅行などの事前調べや、職場体験等の進路選択の資料として学校図書館を活用しています。教科等での図書活用をどの学校でも実施していますが、教科で指導しなければならない内容量と授業時数の関係から、関連図書の活用が難しい場面もあります。

	該当ページ	意見	市の考え方
18	—	学校図書館の役割の重要性をもっと具体的に記載してほしい。今までの実績、これから具体的にどうしていきたいかを見える形で司書連絡会や研修のことにも触れていただけたらと思います。	本計画中の«学校における現在の取り組み»に記載しております内容は学校図書館、学校図書館連絡協議会、研修なくしてはできないものであることから、それぞれの実績、役割の重要性について具体的におわかりいただけるものと考えます。また、«学校におけるこれからの取り組み»で触れているとおり司書教諭及び学校司書が図書館連絡協議会等の場での協議、情報交換、研修等を通じて指導室とともに推進に努めてまいります。
19	—	計画の中にもう少し学校図書館の役割と狛江の状況を入れてほしい。	各学校段階において記述していますが、これ以上詳細に記述した場合、個別の学校の事例となってしまいますので本記述とさせていただきます。
20	—	学校図書館も休業日に地域に開放して、そこで子どもたちに読み聞かせをするなどそういう展開ができると思う。そういう面で学校の図書館の開放を休業日に行ってそこで地域のボランティアが読み聞かせをして地域の子どもたちがそこに参加して読書習慣を涵養していくというような工夫をすることが必要である。	学校図書館を休業日等に地域へ開放することは、読書の機会を広げていくなどの意味で大切なことであると認識しておりますが、休業日開館したときの人的な配置や開放を想定して学校図書館を配置していないため学校施設の管理の面で現時点では、非常に難しい状況です。
21	—	支援センターのことが二回ほど触れられているが、支援センターがどんなことをして、これからのどうなっていくのかを提示してほしい。	学校図書館支援センターの事業ついては、学校図書館の効果的な活用・運営のために、学校図書館支援センターの支援の在り方を調査研究することを目的として、平成18年度から平成20年度までの３か年事業として文部科学省から委託されました。３か年で資料の収集や地域人材の活用方法等研究しましたが、文部科学省の委託期間終了後、予算的な措置ができず、支援センターの実質的な運営ができなくなっています。ただし、モデル期間に研究した内容については、各学校図書館でそのノウハウ等を生かしているところです。そのため、本事業について推進計画の中に追加することは難しい状況です。
22	—	学齢期の前の子どもたちのいる保育園や幼稚園に対して団体貸出以外にどのようなものがあるのか。	現在保育園や幼稚園に対しては団体貸出が中心ですが、今後は関係機関と話し合うなどして、ニーズの把握に努めてまいります。
23	—	学齢期前の子どもたちの関連施設に対して、団体貸出のほかにもなにか新たなサービスをやっていきたいというものがあれば示していただきたい。	現在の団体貸出に加え、絵本セットの貸出を検討しています。また、ニーズにはできるだけ応じ、関連施設の要求を把握していけるよう努めます。
24	—	現在まで地域に対する働きかけや、読書活動推進のためにボランティアを組織している団体などに働きかけてきたことはありますか。	図書館や地域センター図書室のおはなし会においては、ボランティアの方々の協力をいただいています。また、家庭に関してはブックスタートの中で絵本を介して親子のふれあいの大切さを伝えています。地域に関しては、子どもに読み聞かせをするボランティアに対し、図書館が講座等を開きスキルアップのお手伝いをしています。
25	—	ホームページからダウンロードし、市民が自分で印刷するということは読まれる工夫がされていないと思う。	今後の課題という形で考えてまいります。

登録番号　H24-38

第二次狛江市子ども読書活動推進計画

平成 25 年３月発行

発　行　狛江市教育委員会
編　集　狛江市教育委員会教育部図書館
　　狛江市和泉本町１丁目１番５号
　　電話 03（3488）4414
印　刷　庁内印刷
頒布価格　80 円